

平成26年第14回

# 荒川区教育委員会定例会

平成26年7月25日

於)304会議室

荒川区教育委員会

平成26年荒川区教育委員会第14回定例会

1 日 時	平成26年7月25日	午後1時30分
2 場 所	304会議室	
3 出席委員	委 員 長 委員長職務代理者 委 員 委 員 教 育 長	高 野 照 夫 小 林 敦 子 坂 田 一 郎 青 山 侖 高 梨 博 和
4 出席職員	教 育 部 長 教 育 総 務 課 長 兼 教 育 施 設 課 長 学 務 課 長 指 導 室 長 生 涯 学 習 課 長 図 書 館 課 長 書 記 書 記 書 記 書 記 書 記 書 記 書 記	五 味 智 子  丹 雅 敏 佐 藤 淳 哉 小 山 勉 北 村 美 紀 子 小 堀 明 美 駒 崎 彰 一 末 永 寿 宣 佐 藤 友 信 大 谷 実 中 村 栄 吾 湯 田 道 徳 宮 島 弘 江

(1) 審議事項

議案第33号 平成27年度から使用する小学校教科用図書の採択について

議案第34号 平成27年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について

( 2 ) その他

委員長 皆様、お暑いところ、きょうはありがとうございました。ただいまから、荒川区教育委員会第14回定例会を開催いたします。よろしくお願いいたします。

出席委員数の御報告を申し上げます。5名の出席でございます。

会議録の署名委員は、小林委員及び青山委員にお願いいたします。

では、教育長、ごあいさつをお願いします。

教育長 本日は、来年度から使用いたします小学校教科用図書の採択、並びに特別支援学級で使用させていただきます一般図書の採択について、お願いをさせていただきたいと存じます。慎重審議の上、御決定いただきますよう、よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございました。

では、審議に先立ちまして傍聴の皆様申し上げます。皆様にお配りしました傍聴券に記載の注意事項をよくお読みいただきたく思います。それから傍聴中に御発言などによって議事を妨げないように、御協力よろしくお願いいたします。

それでは、本日の議事日程に従いまして、議事を進めます。議案が2件ございます。初めに議案第33号「平成27年度から使用する小学校教科用図書の採択について」です。

荒川区教育委員会におきましては、4月25日に開催した定例会におきまして、今回の小学校教科用図書の採択方針及び手続を確認し、また、6月27日に開催しました定例会において、選定調査会からの報告を受けました。この間、委員個人による調査研究のほか、2回にわたる勉強会を開催いたしました。各社の教科用図書の編集趣意書や、東京都教育委員会における教科書調査研究資料などに基づきまして、また、教科書展示会におけますアンケート、区民の方たちの意見も参考にいたしまして、勉強してまいりました。きょうは、それらの調査研究の結果を持ち寄り、採択を行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の審議の進め方でございますが、御手元の議案に記載のとおり、各教科・種目ごとに、一つ一つ審議・採択を進めてまいります。また、本日は指導主事の出席を求め、必要な場合には説明や報告を行わせたいと思います。これにつきまして異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 ありがとうございます。

それでは、議案の審議に入ります。議案第33号「平成27年度から使用する小学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局より議案の説明をお願いいたします。指導室長、よろしくお願いいたします。

指導室長 それでは「平成27年度から使用する小学校教科用図書の採択について」、御説明申し上げます。

文部科学省より示されております「小学校教科用図書目録 平成27年度使用」に掲載されている教科書の中から、9教科・11種目について、それぞれ1種類の教科用図書を荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づき御採択いただきます。

調査の経過につきまして、御報告申し上げます。先ほども申し上げました荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づきまして、6月2日に教科用図書選定調査会を設置いたしました。この選定調査会は、学識経験者、地域関係者、保護者、学校関係者の計8名で組織され、全3回の協議を通して、すべての教科用図書に関して調査研究を行いました。選定調査会においては、各教科の専門性の高い本区の小学校長及び教員により組織される教科専門部会に調査を委嘱し、報告を受け、その内容を参考にしながら、具体的な検討を行ってまいりました。机上に配付いたしました、教科用図書選定調査会調査研究報告書に調査結果をまとめさせていただきます。

また、広く区民の皆様や、各学校の教員等に直接教科用図書を見て、たくさんの意見をいただくために、6月3日（火曜日）から26日（木曜日）まで、生涯学習センター内で教科用図書展示会を行いました。その間、延べ106名の入場者があり、44名の方からアンケートの回答をいただきました。このアンケートにつきましては、事前に送付させていただいております。

これら教科用図書選定調査会調査研究報告書及び展示会のアンケートを参考にさせていただきながら、御審議をいただき、採択について、よろしく御願い申し上げます。

委員長 御説明ありがとうございました。ただいまの御説明にありますように、選択の対象は、この議案第33号の議案書でございますとおりで、9教科・11種目になります。議案書に記載の順に審議・採決を行い、決定したいと思います。

審議・採決の方法は種目ごとに、事務局より改めて調査内容の報告を受けた後に、各委員より報告内容に対する質疑や、各社の教科用図書に対する意見、候補とすべき図書の推薦などについて、御発言をいただきたく存じます。そして協議させていただきます。最終的に大方の方向がまとまったと判断された段階で採決を行います。よろしく御願いいたします。

最終的に委員の意見が分かれ、複数の候補が残った場合ですが、その複数の候補について、議案に記載されている発行者の順に、その発行者の図書がふさわしいと判断される委員に挙手をいただく形で採決したいと考えています。その場合、きょうの出席委員は5名ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条の規定により、過半数の3票を獲得した発行者の図書が採択となります。なお、仮に可否同数の場合は、同じく地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条の規定により、委員長である私が決することになりますので、よろしく御願いいたします。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議ないと認めます。ありがとうございます。皆さんの同意が得られましたので、そのように取り扱うようにいたします。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第5項の規定により、自己、配偶者、もしくは三親等以内の親族の従事する業務に直接の利害関係がある事件につきましては、その議事に参与することができないこととなっておりますので、その点よろしく願います。

それでは順に、教科「国語」、種目「国語」から審議・採決をいたします。

青山委員 委員長。教科「国語」、種目「国語」「書写」につきましては、私は発行者のうちの1者から、自分の出版物がございます。法律的には、出版物があるということは利害関係人には当たらないという解釈があるようでございますけれども、しかし、これは業者選定という性質上、先入観をもって審査をするということは好ましくないと考えますので、私はこの種目「国語」「書写」の2種目については、この審議から退席をさせていただきたいと考えますので、よろしく御了解のほどをお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。青山委員から、「国語」「書写」に関して、この審議から一時退席の申し出がございました。皆様よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 また後ほどお呼びしますので、よろしく願います。

〔青山委員退室〕

委員長 それでは、指導室長より「国語」について説明をお願いいたします。室長、お願いいたします。

指導室長 教科「国語」、種目「国語」の調査研究のまとめを御報告申し上げます。

東京書籍に関しましてでございます。内容は、1～4年が上下2冊、5・6年が1冊になっている。ノートづくりを重視し、作り方に関する記載がある。教科書の使い方「国語の学習を進めよう」の記載がある。「言葉の力」でポイントや生活への生かし方を説明している。表現でございますが、説明的な文章について、写真が多く用いられている。単元構成でございますが、3領域1事項の学習がバランスよく行えるように時数を配当している。高学年で、話す・聞く・読むの複合単元がある。単元の終わりごとに学習の重点となる「言葉の力」が示されている。使用上の便宜でございますが、低学年では単語や文節の途中での改行を避けている。

学校図書でございます。内容につきまして、全学年、上下2冊。「単元の学習の流れ」が、「話す・聞く」「書く」単元の冒頭に示されている。「読む」の教材の前に「読むレッスン

ン」が示されている。「書く」の内容に特色があり、レポート、送り状など実生活に生かせる内容である。表現でございますが、児童作品の例が手書きタッチで表現されている。単元構成でございます。言葉に関する小単元が多く、読書活動が充実している。3年生から、読むことの単元前に「読むレッスン」として読むことに関する練習教材がある。使用上の便宜でございます。1年上ではページの端をカットし、指で押さえて、目的の単元がすぐに開けるような目次の工夫になっている。

三省堂でございます。内容でございます。1年上下2冊、2～6年1冊、及び資料集1冊。1年生は巻末に、「学びをひろげる」を設けている。全学年に「図書館へ行こう」を設定し、児童の主体的な図書館活用を促している。年間を通して学習の見通しを立てるページがある。表現でございます。見開きの一覧性を生かし、全ての教材が偶数ページである。単元構成でございます。ねらいを焦点化し、複合単元がない。各単元後に読書の手引「わたしの本棚」がある。

教育出版でございます。内容でございます。全学年、上下2冊。学習の手引きを丁寧に示し、活用に至るまでの学習の流れが分かりやすく示されている。表現でございます。2年生の下「昔のお話を楽しもう」で紙芝居の活動を行うことがしやすくなっている。単元構成でございます。各単元で学習の進め方の流れが詳しくしっかりと示されている。説明文や物語文の後に「言葉」という項目で、習得した言葉の活用ができる。

光村図書出版でございます。内容でございます。1～4年上下2冊、5・6年1冊。3年生以上に学習を見わたそうのページがあり、単元の学習の仕方が分かるようになっている。単元冒頭に学習内容と目標が明示され、単元名で学習の観点がわかるようにしている。「ふりかえろう」の項目があり単元ごとにふり返りを行うことができる。表現でございますが、季節のことばのページがあり、季語や俳句が紹介されている。単元構成でございます。読むことで学習したことを生かして、書くこととなるような単元構成である。物語文や説明文の後、及び巻末には、同じような内容の本の紹介（この本 読もう）がある。使用上の便宜でございます。用語解説や覚えておきたい知識を「大切」に記載し、巻末に「大切のまとめ」がある。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

委員長 ありがとうございます。では、それぞれ各委員から御自由に御発言をいただきたく思います。どなたかございますか。坂田委員、お願いいたします。

坂田委員 国語は、一つは全体としての学習のしやすさ、それから手引が適切かどうか、それから子どもたちの積極的な姿勢を引き出す工夫があるかどうか、内容のバランスといったことがあると思いますけれども、加えて、子どもたちの学習の場面を見ておりますと、文学作

品については子どもたちが何度も音読をします。実際、覚えるぐらいに音読をすることが行われていますので、作品の内容も重視して考えたいと思います。また、区の方針に沿って、図書館の活用が促されているかといったことも大事かと考えています。

東京書籍については、1年生の導入部に挿絵が多くて、1年生が学習に非常に入りやすいのではないかと思います。学習の手引がかなりいろいろと付いているところが特徴かと思えます。若い先生にはいいかと思えますけれども、熟練された先生については多過ぎるかもしれません。

学校図書は、考え、読み、話し合うことを重視されていて、学習の手引があって、使いやすそうな印象はあります。5年生の、例えば「メディア・リテラシー入門」、池上彰先生ですけれども、項が設けられて、新しい時代の情報について強調されているのが特徴かと思えます。

三省堂は、整理、考える、発表の流れが重視されていて、この流れはとてもいいのではないかと思います。また、クラスで伝えたり話し合うことが大事にされているという特徴があるかと思えます。作品については、選ばれたものの内容はよいと思うのですが、古典や詩歌が少なめではないかという印象があります。図書館活用のページは、これは各出版社とも充実してきているかと思えますが、三省堂は伝統的に充実していると思えます。あと、学年ごとの字の大きさは適切かと思えます。発展的な内容については、別冊の『学びを広げる』というものがついていて、これは内容的には非常に充実しているのですが、若い先生には、別冊ということで流れの外側にありますので、この教科書を使っていくときには指導・助言が必要かもしれません。

教育出版は、学習の手引が非常に丁寧で、私の言葉では、学習ガイド型の教科書と言えるのではないのでしょうか。例えば、「何々を考えよう」とある場合、「何々」の内容が具体的に書いてあるというところがございます。ほかに「感想を話し合い、まとめましょう」「読み比べましょう」「ここが大事」「大事なことをまとめよう」など、ガイドが多角的に多く出てまいります。若い先生には使いやすいのではないかと思います。

光村図書は、「発表しよう」や「自分の考えを伝えよう」といった形で、子どもたちの積極的な姿勢をかなり重視されているのが特徴かと思えます。「学習」「ふりかえろう」など、指導ガイドが丁寧で、量が多い、やや量が多過ぎるぐらいになっているのではないかと思います。その分、文学などの作品の掲載が、ほかに比べると少しゆとりがないかと。文学作品などがもう少しゆったりと収録されている方がよいのではないかと感じました。

以上のことから、私としては三省堂と教育出版、それから、続いて学校図書を、まず第一候補として、最初の候補として挙げたいと思います。三省堂と教育出版につきましては、先



ほど申し述べましたとおり、教科書としての編集方針といいますか、つくり方にかなり差があり、どちらを選択するかというのは結構難しいところかと思えます。その場合、現場の意見というのもやはり重要かと考えております。まず最初に、以上の全体的な意見を述べさせていただきます。

委員長 ありがとうございます。では、引き続き意見をいただきたいと思えます。小林委員、いかがですか。

小林委員 それでは、まず「国語」だけではなくて、今回、私自身が選定をするポイントとさせていただきます選定の根拠に関しまして、全体的な話をさせていただきたいと思っております。

1 番目ですが、学習指導要領に沿っているということでございます。平成20年に改訂がされまして、この中で基本的な理念としては「生きる力を育む」ということから、1 点目として、基礎・基本的な知識・技能の習得、2 点目として、課題解決をするための思考力等の育成、3 点目として、学習習慣の確立及び学習意欲の向上というものが出されておりました、この学習指導要領に沿っているということを一つのポイントとして挙げたいと思えます。

2 番目は、東京都のほうから出されました「教科書調査研究資料」というものがありますが、これに基づいております。

3 番目としては、荒川区で出されている小学校使用教科用図書選定調査会の資料に基づいております。

4 番目としましては、荒川区の教育実態。これは具体的に言いますと、荒川区の学力テストの結果であるとか、あるいは荒川区の地域性、地域的な特性、及びいろいろとアンケートがございましたので、それに基づきながらということでございます。

以上4点から総合的に判断をさせていただきました。その上で、「国語」についてですが、「国語」は各社、非常に努力をされておりました、迷うところではございます。迷いながらもということなのですが、説明をさせていただきたいと思えます。

まず、現行の三省堂でございます。この三省堂に関しましては、非常に優れた点としまして、1 点目、図書館活用を重視しているということがございます。荒川区では、従来から学校図書館活動を非常に重視してきたとともに、公共図書館を使つての読書指導を重視してきた経緯がございます。この三省堂の場合に、全学年に「図書館へ行こう」という項目がございまして、例えば小学校3年生の場合、図書館で本を読み、ワークシートに記入するといった、そういった写真もございます。また、本についての紹介がありまして、この本を読みたいという気持ちにさせてくれるといった点がございます。また、荒川区の教科用図書選定調査会資料の中でも、三省堂の教科書に関しまして、「児童の主体的な図書館活用を促

している」といった文言もございます。そういった点で、三省堂の教科書、まず1点目として、図書館活用を重視しているといったメリットがあるかと思えます。

2点目ですが、三省堂の教科書の場合、オーラルというか、話すことを非常に重視しているというところが指摘できます。例えば1年生の上を見ますと、「くちのたいそう」というのがあるのですが、こういった「あいうえお」の写真もクリアでございまして、そういった点から、わかりやすい、話すことを指導できる、という教科書構成になっています。

3点目として、資料集というか、『学びを広げる』というのが別についておりまして、これも非常に充実した内容なのではないかと。使い方の工夫が一つ必要かなという点もあるのですが、いいのではないかと思います。

4点目として、三省堂は現行の教科書であり、現在使っているということから、その点でもメリットがあるのではないかと考えております。

次ですが、学校図書について読ませていただいたのですが、非常に優れた教科書であると私自身は思っております。

1点目、基礎を着実に押さえながら、発展につなげるところがあります。例えば「読むレッスン」というのがございまして、5年の「東京スカイツリー」があるのですが、それを読む前に、「生命のかて・塩」という比較的短い文章がございまして、まず読み方のポイントを理解させてから、次に長い文章へつなげるといった工夫がされていると思います。

学校図書が優れた点の2点目としては、非常に書くことを重視しておりまして、例えば6年生の場合、「卒業レポートを書こう」といったことであるとか、あるいは「電子メールや送り状の書き方」というのがありまして、これは今まさに使う必要があるものとして、こういった書くことを重視されているということをお優れた点として挙げたいと思います。

3点目として、文学作品として優れた作品が収録されているということに加え、説明的な文章に関しても、学校図書はとても充実しております。文学作品で見ると、レオ＝レオニの『スイミー』であるとか、新美南吉、重松清なども非常にいい作品が収録されている。それとともに説明的な文章というのは、やはり現代の社会において重要ですので、そういった説明的な文章も収録されている、バランスよく収録されているといった点がございまして、その点、学校図書は非常にいいと思いました。

その他の各社も優れた点が多く、光村図書は、特に掲載されている作品がいいという点がございまして、東京書籍は今回、古典が充実しておりまして、伝統文化を重視するという点から非常にいいと思いました。また、教育出版は、国語が楽しくなる工夫が凝らされておりまして、恐らく若手教員は指導しやすい教科書かと思いました。

以上、いろいろと考えたのですが、私自身は、学校図書を推薦させていただきたいと思っ

ております。

委員長 ありがとうございます。詳しくお話しいただきましてありがとうございます。では、高梨教育長、お願いします。

教育長 私は5者見させていただいた中で、現在使用しております三省堂と、先ほどの小林委員もおっしゃいました光村図書が、やはり取り上げられている教材が大変充実しているというか、安定しているなという思いがいたしました。ただ、事務局を預かる者として、現在、荒川区が特に重点的に進めております図書館教育ですとか、あるいは、自ら考え、自らの考えをお互いに話し合うということ大きな目標にしておりまして、その話し合い等を通して、自分自身、しっかりした自分、自我を確立するということを考えると、結論的に申し上げますと、私は光村と三省堂を比較する中で、三省堂が優れているのではないかという結論に至りました。理由については坂田委員、小林委員がおっしゃったところと重複しますが、「図書館へ行こう」という設定の中で数多くの図書、冊数だけではなく、児童が学校図書館を利用しやすくなるような表現が数多く記載されていること、また、現在、三省堂の教科書を使っているということもありまして、『学びを広げる』、別冊になっているので若干活用しにくいというきらいはありますけれども、逆に慣れてくると、発展的な学習のためにこの別冊を有効活用することによって、より学習効果が上がるという現場の声も聞いてございますので、ここは現場の声を代表いたしまして、三省堂を推したいと思っております。

委員長 ありがとうございます。そうしますと、私も意見を言わないといけないのですが、先生の御発言したことは重複しますのでやめますが、今回の教科書の採択に当たりまして勉強させていただきましたところ、各社がそれぞれ非常に工夫されていて、特徴が出ていて、本当に苦労させられたのが現状ではないかと思うのです。それでいろいろ迷いました。私は、2つについて述べさせていただきます。

一つは教育出版ですが、これが無理なく、自然に子どもたちを導くのに流れがいい、ゆったりしているという感じがして、この本が今の子どもたちに要求されるかなということが感じられました。これとまさに対極にあったのが、荒川区で現在使われている三省堂の本です。三省堂の本は前回、非常によくできていて、他社の追随を許さないという印象がありました。それに伴うように各社が努力して非常にいい本になったのですが、幾つかの理由があります。三省堂の本は、ねらいや焦点がしっかりしている。各学年に学ぶべきことが明確であるということ。きちんとしたことが指導できるようになっている。それから荒川区で学校図書館活用を十分に広げるように、『学びを広げる』、これは少し薄くなって、当初は大変使いにくかったそうですけれども、使い方によっては非常に有用であります。私は2つを比べた場合、全部読んだのですけれども、前回は三省堂を使っていますし、現場の意見もこの方が強いと

いうことでありますので、三省堂を薦めたいと思います。

そのような意見ですが、そのほかございませんか。

教育長 今回、各社とも読書について力を入れて、児童に紹介しているなというのがトータルな印象でした。学年ごとに推薦図書掲げていただいておりますので、教科書採択とは別に、学校図書館をさらに充実していく中で、各社から御推薦いただいております図書について、図書購入は学校長が決定することになりますけれども、教育委員会事務局としても、良書を積極的に学校図書館に配備するようになりたいと思っております。

委員長 ありがとうございます。先ほどの、私、三省堂がいいと言ったのですが、ちょっと追加しますが、「読む」「話す」「聞く」「書く」、この基本が非常に、そのように導くようになっていて考えています。もう一度言いますが、焦点がしっかり定まっているという印象が強かったものですから、三省堂がいいだろうという意見でございます。

採択に移ってしまってよろしいですか。ほかに御意見がなければ、4人の委員の投票で決まることとなります。御審議に従って、今の委員のお話ですと、三省堂がよいという意見が多かったと思いますが、調査研究の順番に従って、もう一度確認いたします。東京書籍がよろしいと思う人、手を挙げてください。

〔委員による挙手〕

委員長 学校図書がよろしいと思うのは。

〔委員による挙手〕

委員長 1票。それから、三省堂がいいと思う人は手を挙げてください。

〔委員による挙手〕

委員長 これで、票が3票決まりましたので、教科「国語」、種目「国語」につきましては、三省堂を採択したく思いますが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 次に移ります。続いて、教科「国語」、種目「書写」を審議・採決をいたします。

指導室長より「書写」について御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「国語」、種目「書写」の調査研究のまとめを御報告いたします。

東京書籍でございます。内容につきまして、練習帳の機能を持たせている。なぞり書き教材を配置している。各学年に「ノートに書こう」の単元を設けている。低学年ではできたよシールの付録がついている。表現でございますが、実際に書いている写真が載っている。点画についてマークで説明がある。単元構成でございます。毎回の学習で「ふりかえり」の項目がある。他の文字に生かす「広げよう」の項目がある。使用上の便宜でございます。姿勢、執筆を重視し、巻頭に姿勢の写真が大きく掲載している。用具の置き方と扱い方について写

真で丁寧に説明されている。

学校図書でございます。内容につきまして、書き込み欄が充実している。低学年ではできたよシールの付録がついている。いろいろな手法が紹介されていて、文字に対する興味を高めている。表現でございます。児童に呼び掛けるような親しみやすい表現で書かれている。毛筆の手本が半紙大の大きさである。単元構成でございます。単元ごとに「学習をふりかえろう」の項目がある。使用上の便宜でございます。手本の大きさが大きい。

三省堂でございます。内容につきまして、低学年では指でのなぞり書きを取り入れている。毛筆を硬筆に生かすように考慮されている。書き初めは大きい手本がある。表現でございます。挿絵や写真はシンプルで少ない。硬筆の練習部分がたくさんある。単元構成でございます。毎回の学習のふりかえりの項目がある。使用上の便宜でございます。正しい姿勢を大きく図示している。

教育出版でございます。内容でございます。硬筆は原稿用紙の書き方や俳句を学習材としている。筆記用具についての説明が豊富である。表現でございます。文字のアウトラインをさまざまな大きさ、形の四角形で表すことで、バランスをつかみやすくする工夫がある。ポイントをイラストや文字の色分けで工夫して示している。絵や写真が多用されている。単元構成でございます。毎回の学習でふりかえりの項目がある。他の文字に生かす「生かそう」の項目がある。使用上の便宜でございます。鉛筆の持ち方、手の置き方の写真を掲載している。用具の置き方と扱い方について、写真で丁寧に説明されている。

光村図書でございます。内容でございます。なぞり書きをして練習する部分が多い。4年の漢字の組み立てでは、シールを活用している。表現でございます。ワーク形式になっており、穴埋めの項目がある。単元構成でございます。毎回の学習のふりかえりの項目がある。使用上の便宜でございます。用具の置き方と扱い方について写真で丁寧に説明されている。

日本文教出版でございます。内容でございます。姿勢、持ち方のページを増やし、写真を大きく掲載している。表現でございます。イラストの使用や色使いを効果的に行っており、筆の入りがわかる工夫になっている。単元構成でございます。漢字の書き順は最後まで書いてある。各学年に「まとめ」の単元があり、基本的な筆使いの練習がある。単元ごとに「できたかな」の項目がある。使用上の便宜でございます。用具の置き方と扱い方について写真で丁寧に説明されている。

以上でございます。

委員長 どうもありがとうございます。では、教科「国語」、種目「書写」について御説明いただきました。御審議をお願いいたします。坂田先生お願いします。

坂田委員 「書写」につきましては、毛筆だけではなく、硬筆もやはり重視する必要があるか

と思いますし、それから両者の間のつながりといいますか、毛筆から硬筆へというつながりも大事かと思います。各社のを拝見いたしましたけれども、ほかの科目に比べて大きな差異はないかと思いますが、なぞり書き、それからまとめ、それから文字の組み立て方といった点が充実している三省堂がいいかと思います。教育出版と学校図書については、つくりとしては、三省堂と比べるとややシンプルなつくりになっていて、シンプルな点もいいかとは思いますが、先ほど申し上げたとおり、3点の充実度を評価して、三省堂を推したいと思います。

また、漢字の学習の順番など、学年の中でもいろいろあろうかと思いますが、そういった学習順序を合わせるということを考えると、国語の教科書と出版社を一致させることの利点もあるのではないかと考えております。

委員長 ありがとうございます。

小林委員 書写の教科書についてですが、各社本当に工夫されていまして、これもどうかとかなり迷いました。ただ、私自身は国語のほうを学校図書としましたので、書写についても学校図書ということで考えさせていただきたいと思いましたが、まず、学校図書のいい点としては、1点目、姿勢、鉛筆の持ち方の写真などがあり、わかりやすい点がございます。2点目として、児童に呼びかけるような親しみやすい表現で書かれているということがございます。これは荒川区の教科用図書選定調査会の資料にも指摘されていることとございます。それと3点目ですが、手本の大きさが大きく、半紙大の手本、そういったものも充実しているということがございます。4点目としては、どちらかというとすっきりしているというか、情報量が多過ぎないということを経験として挙げたいと思います。ということで、学校図書を個人的には推薦したいところなのですが、ただし、先ほど国語教科書が三省堂ということで決まっております、国語の教科書と合わせたほうがいいたらと私自身は思っております。これは実際に授業をやる上で、恐らく別の教科書というのは使いづらいような気がいたしますので、そういった点から、結論的には三省堂を推薦したいと思っております。以上です。

委員長 ありがとうございます。現場の方の意見というのでしょうか。国語と、それから書写は一致した方がいいという意見ですか。今、その2つが出ましたので、教育長お願いします。

教育長 今、委員長がおっしゃったように、漢字について、当該学年で教えるべき漢字というのは、当然各者とも同じように国語の教科書の中で掲載しているのですが、その時期、何学期に教えるかについては微妙に違いがあります。その場合、書写の教科書と国語の教科書とが一致していた方が、より漢字の学習等にも、混乱といたしますが、調整が要らないというところもありますので、国語と書写については同一の会社の方がいいのではないかと思います。

ます。

また、それ以外、私自身は、先生方がおっしゃったように、各社とも硬筆、毛筆とも、子どもたちの姿勢ですとか、とめ、はね等について、写真や、いわゆる色つきの図で紹介されているので、かなり見やすいなど。そんなに大きな違いはないなと思ったところです。ただ、教科書が三省堂ということで、私は推薦させていただいているのですけれども、改めて、書写の三省堂について見ますと、毛筆と硬筆の関連づけというのが極めて強いといいますが、密接に関連づけて教える、そういった掲載になっています。これは毛筆の学習をしながら、鉛筆で漢字をきれいに書くのにもすぐ役立つという思いがいたしました。子どもたちは、今の時代、なかなか字を書く機会が学校以外では少なくなっていると指摘されておりますので、きちんと鉛筆等で美しい字、正しい字を書くという意味からすれば、三省堂のこの書写の教科書は、普段使う鉛筆の書き方にも役立つ内容になっていると思いました。

委員長 ありがとうございます。では私の意見です。私は、国語と一致した方がいいというのが原則だと思っております。といいますのは、現場で使いやすいということに非常に重点を置いています。

東京書籍ですが、毛筆での学習が硬筆に生かせるようになっていて、「こう筆に広げよう」という項目がとてもいい本であると考えました。それから学校図書ですが、すっきりと明快で非常に学習しやすい。きちりしているのです。毛筆手本も大きく親しみやすい。三省堂ですが、これは現在使用中であるということも当然ですけれども、1年間の学習のまとめがある。繰り返して、自己評価をして学習を生かすようになっている。やはり繰り返しが大切だろうと考えます。もう一ついいところは、挿絵や写真がシンプルで少なく、また、先ほどの教育長の御発言のように、硬筆の練習部分が多い。鉛筆で書く。そこがやはり前回の教科書選定が間違っていなかったのだろうかという印象も持ちました。

そのほか、教育出版はバランスがよくて、使いやすく工夫されている。用具の置き方、扱い方が非常に丁寧に書かれている。光村図書はなぞり書きが多くて、私はいいと思います。というのは、子どもころさんざんなぞって書写をしたことがあるからです。そのほか、日本文教出版はイラストが多くて、色使いがわかりやすく、基本的な筆の使い方の練習が多い。

それぞれいい特徴がありますが、最初に述べましたように、私としては、三省堂が国語と一致している。それと硬筆の練習部分が多い。今の子どもたちに要求される場所だろうということで、三省堂を推薦したいと思います。

そのほか御意見ございますでしょうか。では、教科「国語」、種目「書写」についての説明も、すべて審議も済んだように思われます。ほかに意見がなければ採決に移りますけれども、御審議を伺っていますと、大方が三省堂がよいと。4票ですね。そのため三省堂の書写

を採択することにしたいと思いますが、異議ございますでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議なしとのことですので、教科「国語」、種目「書写」は三省堂を採択することといたします。4票ですね。

では、青山委員をお呼びください。

〔青山委員入室〕

委員長 青山委員が着席されましたので、続いて、教科「社会」、種目「社会」を審議・採決いたします。指導室長より「社会」につきまして御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「社会」、種目「社会」、調査研究のまとめを御報告申し上げます。

東京書籍でございます。内容、「つかむ 調べる まとめる」をはっきりと打ち出している。時事的な内容も適宜取り入れられている。見開きで1時間になっている。海外、外国人や環境、エコの取り扱いがしっかりしている。領土問題は5年の「日本の国土」の單元において記述されている。表現でございます。言葉や説明が丁寧である。資料が新しいものが多く、現在の事情に合っている。「学び方コーナー」の項目で、調べ方、ポイントについて丁寧に説明されている。単元構成でございます。「調べる」項目では、情報量や記述、資料が多く示され、また「まとめる」の項目では、徐々に自学できるように、説明が少なくなっていく。「まとめ」の項目では、まとめ方の例を示し、自分で学習できるように工夫されている。使用上の便宜でございます。中央部で印刷が重なっていない。製本部分が折りやすく工夫されている。地域性でございます。「高原の暮らし」として、長野県の南牧村を取り上げている。清里高原学園での見学場所等も掲載されているので学習に適応している。

教育出版でございます。内容でございます。「学習のてびき」として、社会科学習の進め方の手だてがまとめて掲載されている。3・4年上、地域学習の事例として横浜市を取り上げているため、東京近郊ということで児童が把握しやすい。領土問題は5年の「日本の国土」の單元において記述されている。表現でございます。参考イラストが多様で、児童が新聞等にまとめる際に活用できる。製造工程や販売手順など「流れ」を学ぶ單元では、写真と説明が明確で理解しやすくなっている。各種グラフ、統計は最新のものが使われている。単元構成でございます。「まとめる」内容が各小単元に設定されていて、基礎基本事項の確認を行うことができる。「深める」内容が大單元ごとに設定されて、言語活動等、活動の事例が提示されている。3・4年の上、「社会科ガイド」として、社会科学習の学び方が掲載されている。地域性としまして、5年の上、京浜工業地帯が事例として掲載されている。5年の上、東京スカイツリーの建物に関わる技術について掲載されている。5年の上、高地の学習で清里周辺の地形図が使用されている。



光村図書でございます。内容につきまして、単元末にまとめ方や学習の広げ方の例示がある。各巻末には、その本の中に出てきた「たいせつ」の一覧があり、まとめられている。領土問題は5年の「日本の国土」の単元において記述される。表現でございます。言葉、大切、国宝、世界遺産など、教科書にマークで示されており、解説などが書かれている。写真や図は大きく見やすく配置もよい。単元構成でございます。どの単元にもホップ、ステップ、ジャンプなどの表記があり、学習の流れや学習の方法が示されている。学習のまとめ方が例示されている。使用上の便宜でございます。5学年、6学年が上下巻に分かれておらず、それぞれ1冊にまとめられている。字が大きく見やすい。

日本文教出版でございます。内容でございます。領土問題は5年の「日本の国土」の単元において記述。表現でございます。大切なことを太字で表している。挿絵の視点が遠方上空でなく、直近から見ているので見やすい。単元構成でございます。単元の最後に「ふりかえってみよう」の項目がある。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

委員長 ありがとうございます。御説明していただきました教科「社会」、種目「社会」の説明につきまして、御審議をお願いいたします。どういうふうに行きましょうか。青山先生、最初にいいですか。

青山委員 社会については学習指導要領において、6学年では、第一に「国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績等について、関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てるようにする」と、そう定められております。これに基づいて、具体的に比較をしてみました。

まず、教育出版では、6年の上の94ページにおいて「新しい政府をつくる」という項目の中で、「西郷隆盛や大久保利通、木戸孝允たちは、明治維新と呼ばれる、政治や社会の改革を進めていきました」という記述があります。それから、同じく96ページにおいて、「西洋に追いつけ」ということで殖産興業の記述があって、渋沢栄一が紹介されています。

それから、同じ項目につきまして、東京書籍の6年の上を見ますと、104ページにおいて大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允の明治維新における活躍が描かれていて、それから106ページにおいて、「大久保利通と明治新政府の改革」ということで、廃藩置県等の記述がございます。ここでは、106ページから107ページにわたって廃藩置県、富国強兵、殖産興業、地租改正についての説明が、それぞれ各文章、文節の括弧書きという形になっています。

そういった意味では、この今の教育出版と東京書籍を比べると、やや東京書籍の方が殖産興業と富国強兵との比較の中で大久保利通を取り上げていて、この点は学習指導要領の「国

家社会の発展に大きな働きをした先人の業績」という、第6学年の1点目に書いてある項目からするとわかりやすいかと思います。

なお、そのほかの会社については、やや、今比較した点についての人物の業績の出方が、今の2社ほどは明確ではないかなと思います。

委員長 ありがとうございます。

教育長 では、私も社会の教科書についてコメントさせていただきたいと思います。私も教科書を比較して調べてみました。幕末の、明治維新がどのように成立してきたかというところで、大政奉還があって、すぐ明治維新になったという部分を記述している教科書が多いのですが、実際は大政奉還後、鳥羽・伏見の戦いに端を発する戊辰戦争があって、新政府軍と幕府軍の戦いも起こりました。それについてきちんと記述されているのが、東京書籍と光村図書でした。東京書籍は、現在使っているということもあるのですが、系統だって「つかむ 調べる まとめる」というところで、発展的に学習していく構成になっていて、小学生にとって、日本の歴史を初めて学ぶ上で理解しやすい構成になっていると思いました。また、社会的な問題で、いまだに日本国内で大きな課題となっております東日本大震災についても、東京書籍では5年生の下と6年生の下と、2学年にわたって詳細に記述してありまして、予防だけではなくて、災害の復興についてもページを割いて記述がされており、情報が他社と比べてかなり詳細になっていると思いました。

最後に、領土問題については、各社とも日本の領土についてきちんと記述がなされていて、竹島とか尖閣とか、不法に占拠をされていたり、日本の権利が侵害されている状況については、各社ともきちんと記述されているなという印象は受けました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

坂田委員 各社とも子どもたちの主体的な学習を支援する姿勢が明確になってきたと思います。また、社会の教科書の特徴として、情報の重要性についてかなりの紙面を割いて学習をさせているというのが共通点かと思います。私は、21世紀を生きる子どもたちにとっても情報の重要性を教えるということは非常に重要だと考えております。

私は総合的な観点から少し各社の教科書を検討してみました。東京書籍ですけれども、流れとして、「つかむ 調べる まとめる」となっていて、この流れは非常にいいのではないかと思います。また、内容的に見て、歴史は各社同じタイミングで取り上げているわけですが、それ以外には地理、仕事、環境、防災、それから、産業、文化、人権といったようなことについて、バランスがいいのではないかと考えました。また、先ほど高梨教育長からお話がありましたように、5年生の下と6年生の下で東日本大震災について大きく取り上げてい

るとというのが特徴で、例えば、6年生につきましては、下巻の18ページから29ページまで、かなりの紙面を割いて取り上げられています。私は、東日本大震災については、社会の事象として子どもたちが学ぶ重要な対象だと考えますし、また、子どもたちが主体的学習という意味で、調べ、考えたりするということの対象として、優れた対象ではないかと思えます。復興支援というのは、荒川区も非常に重視をしてくれているわけですので、区の方針とも合致しているかと思えます。

教育出版は、字が大きくて非常にわかりやすいと思います。イラストが多彩で、低学年にも身近な題材があると。6年生の歴史は、全体的に見ると体系的に学びやすい構成になっているのではないかと感じました。

光村図書ですけれども、字や絵が大きくて、親しみやすいという感じがあります。ちょっと大き過ぎるかもしれないなとは思いました。特に高学年においては、調べ、話し合うことを非常に重視した構成になっていて、この点は優れているかと思えます。また、問いかけ調の見出しが非常に多くて、主体的な姿勢を重視するという点が明確になっているかと思えます。5年生では内容的な特徴として、工業について比較できるようになっています。

日本文教出版ですけれども、調べる、考える学習を重視した構成になっていると考えられます。また、まとまりごとに「ふりかえってみよう」というコーナーがついていて、これは学習に非常に役立つのではないかと思えます。5年生の上で、農林水産業や食生活について、比較的大きな紙面で取り上げているのが特徴かと思えます。

以上のようなことなのですが、私としては総合的に見て、東京書籍を挙げたいと考えます。  
委員長 ありがとうございます。

小林委員 社会の教科書ですが、各社非常に工夫されておりまして、いろいろと本当に努力されているなということがよくわかりました。例えば、教育出版ですが、3年・4年上、地域学習の事例として横浜市を取り上げています。これは東京近郊ということで、児童にとっても理解がしやすいのではないかと思います。また、5年生の方で「東京スカイツリーの建設に関わる技術」というページがございまして、これも荒川区に近い存在の東京スカイツリーに関しての記述ということで、この点は非常にいいのではないかと思います。

光村図書なのですが、先ほど御意見もあったのですが、写真が大きいということがありまして、これは情報量が多過ぎないという点もあるし、インパクトがあるとも考えられますので、そういった点はメリットがあると思いました。

それと、日本文教出版、非常に工夫されていると思いました。ただ、やや真ん中に折り込みが多くて、このあたりが使いづらいかもしいないと思いました。

最後に東京書籍なのですが、私自身は総合的に判断をして、東京書籍がいいのではないかと

と思っております。これから、東京書籍がどういった点で総合的に考えていいのかというところの説明をさせていただきたいと思っております。まず1点目として、先ほどのご意見でもあったのですが、「つかむ 調べる まとめる」ということを明確に打ち出しているということがございます。また、「まとめ方のヒント」がありまして、自分で学習できる工夫が凝らされているという点があるかと思っております。これはまさしく学習指導要領の趣旨からしまして、やはり基礎的な知識・技能を習得した上で課題解決をするための思考力の育成であるとか、あるいは学習習慣の確立、学習意欲の向上といった学習指導要領の趣旨に沿っていると考えられると思っております。

それと2点目なのですが、単元の導入が身近なところから入っておりまして、授業の理解がしやすいといった工夫がなされていると思っております。例えば、小学校3・4年生で「地域を知る」という項目があるのですが、まず、学校の周囲はどうなっているか。その後、市の様子の理解を深めていくということで、身近なところから入って、さらに広げていくといった工夫がされていると思っております。

それと3点目、歴史の部分なのですが、これは各社を比較しまして見ていくと、東京書籍の場合に、資料が充実している。なおかつ、精選された資料が提示されているというのを特色として挙げたいと思っております。例えば、明治維新、明治の国づくりの部分というのは非常に重要な部分なのですが、近代学校の事例として開智学校の写真、これは近代学校の事例としてはとても重要な学校ですが、そういった開智学校の写真がある。また、このページを見ていきますと、左側のページに江戸時代の寺子屋の絵があり、右側に近代学校の絵がある。手習い塾、寺子屋の段階では個別授業だったのが、近代学校になりまして、右側で一斉授業になっていく。要するに、これを見て両者を比較すると、現在学んでいる一斉授業の形態は明治時代以降のものであるということが比較対照できまして、そういった意味でも資料が精選されているということが言えるのではないかと思います。

それと4点目としては、子どもの興味をかき立てる工夫がなされていて、そういった工夫が少し細かい配慮がされているという点があると思っております。

以上の点から総合的に東京書籍を推薦したいと思っております。

委員長 わかりました。青山委員、お願いいたします。

青山委員 先ほど教科書のページを開くのが間に合わなかったのですが、すみません。同じ明治維新後の新しい国づくりの功績についての記述なのですが、光村図書の場合は6年生の102ページに、「大久保利通は西郷隆盛と協力して倒幕」という記述と、遣欧使節団の一員で名前が出てきて、廃藩置県とか、新しい国づくりのところでは出てこないという点が、やや不足気味ではないかと思います。

同じく日本文教出版は、104ページ以下で、倒幕のところではやはり名前が出てくるのですけれども、106ページ以降、「新政府による政治」のところではこれらの功績者の名前が出てこない。岩倉使節団で具体的な名前が出てくるという点が、やや不十分ではないかということです。

今のは明治時代の、主として初期のころの国づくりでどういう業績が描かれているかという観点から見たわけですが、さらに全体を通して、6学年でこの学習指導要領の「国家社会の発展に大きな働きをした先人」の名がどう出てくるかということ全体を通して見ますと、古代では当然、卑弥呼と聖徳太子がどの会社の教科書も共通に出てくる。中世から近世にかけては織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が当然、共通に出てくるという、ほとんど共通であるわけですが、現代に至るとかなり違うということがわかります。現代の人で国家社会の発展に大きな働きをした先人名ということで出てくる人は、東京書籍は現代人ではなし、教育出版では1人、光村図書では4人。日本文教出版では、同じく4人ですが、内容は多少違うということになるかと思います。その場合、実際に出てくる教育出版の1人、光村図書の4人、日本文教出版の4人。果たしてこの4人が、国家社会の発展に大きな働きをした4人なのか、あるいは1人なのかというと、現存する人たちもいるので、ここでは名前を具体的には挙げませんが、しかし、大いに議論のあり得るところではないかと思えます。現代人を1人だけ挙げるのならこの人なのか。この人も、ものすごく功績は大きいと思うのですけれども、1人でこの人なのか、4人でこの人なのか、という点については、大いに議論したのかな。あるいは、教科書として現代人が、この1人、あるいはこの4人で適切なのかという点については、議論の余地もあるかと。絶対に駄目とは言いませんし、絶対にいいとも言えない。かなり議論の余地があるかと思えます。この点がやや古代とか、中世、近世、近代に比べて名前の出方が、現代での名前の出し方については、もっと教科書の世界で議論をしたほうがいいのではないかなということをおきたいと思えます。

委員長 ありがとうございます。4人の先生方、東京書籍でございます。私の観点からも発言をしなければならないと思えます。「つかむ 調べる まとめる」をはっきり打ち出しております。そして、「学び方コーナー」での調べ方、ポイントについて説明をされておまして、荒川区では図書活動も非常に盛んでございます。特に、電子黒板、タブレットを使って、最先端の教育が導入されております。こういう点から見ましても、この歴史、特に現代史、災害、そういうことを深めまして、一つの画面を見てディスカッションして、話し合っ、子どもたちが成長するのではないかなと思って、そういう点でよくまとまっている。社会科の教え方としてとてもいいのではないかと思ひ、東京書籍を推薦いたします。そのほか

に御発言ございませんでしょうか。

なければ採決でございますが、御審議を伺ってみまして、全員が東京書籍がよいという意見でありました。そのため、東京書籍を採択することにしたいと思いますが、異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 ありがとうございます。異議なしとのことですので、教科「社会」、種目「社会」は、東京書籍を採択することにいたします。

続いて、「地図」です。教科「社会」、種目「地図」について御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「社会」、種目「地図」、調査研究のまとめを御報告申し上げます。

東京書籍でございます。内容につきまして、A4サイズ、写真を多く取り入れている。キャラクターが説明を加えている箇所が多い。大きく見やすい。大きい分、文章が多い。5、6年の内容が多く入っている。表現でございますが、文字が大きく見やすい。高さ・深さの表記が立体になっている。写真の説明が詳しく長い。地図帳の使い方のページがあり、キャラクターが説明をしている。資料は1～3年前のものを使用。写真の資料も新しい。世界文化遺産13カ所の写真がある。単元構成でございます。立体地図のようなページが1ページ目にある。習得については、各学年の学習で使用できる内容になっている。使用上の便宜でございます。光沢を抑えている。しっかりと製本されている。地域性でございます。東京都の都市部の地図がある。「奥の細道」旅立ちの地が足立区になっている。

帝国書院でございます。内容でございます。縦B5、横A4サイズ。写真は、ほどよく配置されている。地方別地図のページに、一部分を拡大して詳しく表した地図が入っている。5、6年の内容が多く入っている。表現でございます。平面の図が多い。資料は1～3年前の資料を使っている。写真の資料も新しい。領土や領海の意味の説明が入っている。単元構成でございます。地図のやくそくごとのページで、写真 絵、絵 地図の流れを示している。等高線の説明がある。習得については、各学年の学習で使用できる内容になっている。歴史年表が掲載されている。使用上の便宜でございます。色を抑えているため、小さな文字も見やすい。地域性でございます。二つ折りの東京都の地図がある。

以上でございます。よろしく願いいたします。

委員長 ありがとうございます。では、早速、御発言いただきたく思います。どうぞ御審議をお願いいたします。どなたか。

坂田委員 では。

委員長 はい、お願いいたします。

坂田委員 両社とも基本的な条件は押さえられていますので、必ずどちらでないといけないと

ということはないかと思えます。傾向として、帝国書院は、地形とか、気候とか、気温とか、産業、産業も農林水産、工業とか、防災だとか、目的別の資料図が充実しているという感じがいたします。

紙面のほうは、東京書籍のほうが、図版も大きくて親しみやすい感じはしますが、その分、ほかの教科書よりも大きいので、持ち運びに少しデメリットがあると思えます。地図の光沢なども印象がかなり、実は差があるように思いますが、これについては一概にどちらがいいかということとは言えないのですが、子どもたちから見ると、慣れているほうが、ややいいかというような印象を受けました。

以上です。

委員長 はい。ありがとうございます。では、高梨教育長、お願いします。

教育長 地図の大きさで、大きくて見やすいという意味でいえば、東京書籍が今回から判を大きくしたので、低学年にも見やすくなっているという印象はございました。一方、帝国書院さんについては、地図以外の資料という点で充実していますし、その資料も可能な限り、直近の資料を使っているということで、子どもたちが各国を比べたり、都道府県を比べたりするときの参考になるなと思っています。ただ、いかんせん荒川区として、「奥の細道」旅立ちの地ということで、芭蕉が舟を降りて「奥の細道」に旅立ったということで、旅立ちの地の所在地が、足立に丸をしてあるというのは、荒川区として、教育委員会として、子どもたちに教えるサイドには大きな障害になるなと思っております。

両社とも、先ほどの社会の教科書の際にも申し上げましたが、領土について、きちんと明確に子どもたちにわかるように、世界の中の日本の領土について記述がされていますので、これについては地図を通して、わが国について正しい理解を加味させるために、どちらの教科書も適切であるという印象は持っています。

委員長 ありがとうございます。では、小林先生、お願いします。

小林委員 東京書籍は、確かに判が大きくて、見やすい。工夫もされているかと思えます。ただし、総合的に判断をして、帝国書院の方を推薦させていただきたいと思えます。まず、1点目としては、地図の色使いが明るく、見やすくという点があるかと思えます。2点目としては、中学生、高校生になっても、多分使えるのではないかという点があります。それと3点目、これは私、重要だと思うのですが、軽くて持ち運びが便利という点がありまして、軽い方が、いろいろな所に行くにしても、地図を持って行きやすいということがあるかと思えます。

以上から帝国書院を推薦させていただきます。

委員長 ありがとうございます。では、青山先生、お願いいたします。

青山委員 基本的に、まず東京書籍の判が大きいというのは、持ち運び上は、やや大きめなのが問題かとは思いますが、とはいえ、やはり首都東京の見開きの地図を見ると、折り込みを含めて3ページ分の大きさがあるので、東京都における荒川区の位置とか、そういったことを見る場合に非常に見やすいと思います。

ただし、荒川区の教科書の採択要綱では、第2条で採択の基本方針として、一番がもちろん学習指導要領なのですが、同時に「地域に対する理解を深め、誇りや愛着などの心を育むことができる図書であること」というのがございます。さらに、もう1項目、「区政や本区の歴史、現状等にかかわる記述が正確で、区民として受け入れることができる教科書であること」という規定がございます。この規定からいうと、やはり選定調査会からも指摘がありましたけれども、「奥の細道」の旅立ちの地が足立区になっているという点については、やや採択要綱に触れるのかなと、そういうふうに思います。

荒川区の教育委員会では、荒川ふるさと文化館で何度も芭蕉に関する展示をやっております。そのときのパンフレットや地図等でも、足立区の千住には碑がありますとか、荒川区でも素盞雄神社等に芭蕉の碑がありますとか、そういったことを公平に扱ってしまして、歴史的事実からいうと、いまだにどっちから旅立ったか、どちらが旅立ちの地であるか、決定打はないと思うのですが、両論あるということ、荒川区では常に区民に対して紹介をしてくれているところであります。

ある意味これは、隅田川に挟まれているわけですから、隅田川を挟んで両側に千住があるので、千住が旅立ちの地と言っても、足立区の千住なのか、荒川区の千住なのかという点については、川で地域を分ける考え方と、川の両側にその町があるという考え方と両方あるので、これは道路も同じでございます。東京で23区の町の名前をつけるときに、道路を挟んで町の名前が変わる場合と、道路を挟んで両側にその町がある場合と、二通りあるわけですし、これはある意味、敵対しなくてもいい話だとは思いますが、けれども。

でも、荒川区民の感情としては、荒川区の千住が旅立ちの地であり、それを郷土の誇りと考えている人も多いわけですし、そういった点から見ると、わずか1項目なのですが、これは致命的かなと思います。

委員長 わかりました。ありがとうございました。私も見解を言わなければなりません。私は、この帝国書院の場合は、写真の資料も新しいのですが、その他、領土や領海の意味の説明が十分に入っている。この辺のところが大変なことだと思いますので、こういう点で帝国のほうがベターと考えております。

そのほか御意見ございますでしょうか。なければ採決に移るのですが、5票、満票で帝国書院ということでよろしいでございますか。



〔「はい」と呼ぶ声あり〕

委員長 では、帝国書院を採択することにしたいと思いますが、異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議なしということで、教科「社会」、種目「地図」は、帝国書院を採択することにいたします。

それでは、教科「算数」、種目「算数」を審議・採決したいと思います。「算数」について御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「算数」、種目「算数」の調査研究のまとめを御報告申し上げます。

東京書籍でございます。内容に関しまして、知識・技能に偏らず、数学的な考え方を伸ばす構成になっている。重点問題等の強調があり、習熟度に応じて問題量が調整できる。基礎から発展・楽しい応用問題まで構成されている。表現でございます。絵や写真・図が多く使われており、問題場面や解き方の理解に役立つ。日常生活を意識した問題場面が載せられている。身近で話題性のある写真資料等が扱われている。単元構成でございます。やさしい内容から難しい内容へと系統的に構成されている。単元間・学年間のつながりがよい。児童の実態に応じ、指導者が指導内容を精選したり、活用を盛り込んだりすることがしやすい。

大日本図書でございます。内容でございます。シンプルで、指導上最低限の内容が盛り込まれている。表現でございます。問題解決学習型の書き込み式のページがある。図やグラフが小さめである。身近で話題性のある写真資料等が扱われている。単元構成でございます。やさしい内容から難しい内容へと系統的に構成されている。単元間・学年間のつながりがよい。

学校図書でございます。内容でございます。習得の段階で、数直線や表などを用いて多様な考え方を導き出そうとしている。発展的な内容が多く盛り込まれている。たとえば別冊『中学校へのかけ橋』をつけている。表現でございます。図と言葉と式のバランスがよく、表現が多彩である。関連付けることで問題解決のヒントになる。挿絵のコメントが工夫されている。単元構成でございます。習得から活用問題まで幅広く載せられており、児童の実態に応じ、指導者による調整が可能である。

教育出版でございます。内容でございます。図が多く、多様な考えを引き出そうと工夫をしている。「学んだことを使おう」や「算数ワールド」等、児童の興味・関心を引く、応用・発展問題が多く載せられている。表現でございます。授業で具体的操作ができるワークシートが工夫されている。挿絵、図、グラフは、問題場面に合ったものが載っている。日常生活を意識した問題場面が載せられている。単元構成でございます。単元導入で「どんな学習がはじまるかな？」というプレ学習と呼ばれるものが入っている。

新興出版社啓林館でございます。内容でございます。図や文字が小さめで、1ページに多くのことが盛り込まれている。中学校での学習を意識し、より高度な内容が盛り込まれている。単元構成でございます。やさしい内容から難しい内容へと系統的に構成されている。1ページの内容が多い。同じ系統の単元を連続して学習する構成になっている。

日本文教出版でございます。内容でございます。欄外に指導者がかけるべき言葉がヒントとして書かれている。考えを説明するページでは、式のみ、言葉のみの表現がある。表現でございます。身近で話題性のある写真資料等が扱われている。単元構成でございます。やさしい内容から難しい内容へと系統的に構成されている。

以上でございます。よろしくお願ひ申し上げます。

委員長 御説明ありがとうございました。御発言をお願いいたします。

坂田委員 では、委員長。

委員長 坂田先生、お願いします。

坂田委員 算数の教科書を全社見させていただきましたけれども、各社とも、子どもたちにとって学びやすさに関する工夫がさまざまなされていると感じました。特に1年生にとっては、算数は一番入りにくい分野ですので、いずれも学習に入りやすい内容の工夫というのが充実していると思います。算数の特徴なのですが、3年生から習熟度別学習が行われている教科ですので、これへの対応のしやすさというのは、算数という教科独自の視点として、われわれは考える必要があるのではないかと思います。

算数についても全体的視点から各社検討してみたのですが、東京書籍は、調査研究のまとめにもそういった同じような指摘がありますけれども、「考えよう」とか「調べよう」といったような表現が非常に多くて、子どもたちに考えさせる工夫が特に評価できるのではないかと思います。また、東京都教育委員会の資料の113ページに、算数的な活動の箇所ということの箇所数を数えたものがあるのですが、算数的な活動の箇所の数が東京書籍は多くて、この点も評価できると思いますし、また、こういった算数的な活動の箇所が多いと、いろいろ選択もできますので、習熟度別学習にも適しているのではないかと考えました。それで、流れとして、力をつけるもんだい、しあげ、おぼえているかな、または、やってみようといった形で流れるようになっていまして、この流れもよいのではないかと考えました。

大日本図書ですけれども、まとめの練習はあるのですが、学習内容を深めるための問題の量が、ほかよりやや少なめという印象を受けました。

学校図書は、「力だめし」というコーナーがあったり、相対的に見て発展的な内容が最も多いのではないかと思います。特に6年生の教科書を見ますと、問題中心の構成になっているかと思ひます。

教育出版は、まとめから振り返ろうという、この流れはとてもよいと思います。特徴として、6年生において、円については大きな図版もあって、面積など円の学習に非常に重きが置かれているという印象がありました。

日本文教出版は、右端にヒントがありまして、これが学習のよい手引きになると思います。問題量は、相対的に見て、比較的多いのではないかという感じがします。たしかめのポイントから復習の流れというのもよいと思いました。

新興出版社啓林館ですけれども、練習からたしかめましようの流れがよいと思います。ほかと比べて写真や挿絵がやや少なめという印象を受けました。

以上、総合的に検討してみたのですが、全体の流れの問題、それから算数的な活動の箇所が多くて、いろいろな使い方ができる。それから、子どもたちの算数的な考えを深めることを学習指導する上での工夫、使いやすさという意味で、東京書籍が最もよいのではないかと感じました。

委員長 ありがとうございます。では、小林先生、お願いできますか。

小林委員 各社を比べさせていただきました。結論から言うと、東京書籍がいいと思います。

東京書籍なのですが、まず、1点目として、東京都の資料からもわかるように、算数的な活動の箇所というのが非常に充実しています。算数においては、やはり作業、あるいは体験的な活動というのは充実させる必要があるので、その点、東京書籍は充実していると思います。

2点目としまして、基礎が充実しているということの上に、さらに応用問題、段階を踏んで学習できる内容になっているということがございます。これは、要するに個人差に対応できるということですので、その点、重要なポイントであると思います。また、基礎を踏まえた上で、さらに応用問題ができるということだと、要するに、やさしい問題でまず達成感を感じて、やる気を出して、その上で、さらに難しい問題に挑戦できるといった方向性になっているということがあるかと思えます。

3点目としては、考えさせる教科書になっている。数学的な考えを伸ばす構成になっていると思います。例えば、1年生の上なのですが、長さを比べるところで、他社の場合、「長さを比べましょう」とあるのですが、東京書籍の場合、「長さの比べ方を考えましょう」ということで、数学的な考え方を問う、そういった形になっています。

それと、4点目ですが、算数は抽象的な概念を扱うのですけれども、日常生活と算数的な、抽象的な概念をつなげるというのは、かなり大切なポイントです。その点、例えば6年生で扱う対照的な図形の中で、日常生活に密着した判断などを持ってくるといった工夫がされておりまして、そういった点で、総合的に考えると東京書籍がいいのではないかと思います。

他社に関していうと、それぞれ工夫されているとは思いますが、大日本図書の場合は、問題の量が少し少ない点があると思っております。学校図書と新興出版社啓林館は、発展的な内容は多いのですが、少し難しいのかもしれないと思いました。教育出版の場合は、日常生活を意識した問題場面がある。そういったメリットはあると思えました。日本文教出版の方は、若干日常的に欠けている問題があるといったことがありました。

総合的に考えると、東京書籍を推薦させていただきたいと思えます。

委員長 はい、ありがとうございました。では、青山委員、お願いします。

青山委員 荒川区の場合は、習熟度別授業と、全国に先駆けてタブレットを使用しているという教育環境があると思えます。一般的には小学校の算数というのは、途中でついていけなくなると、その先もずっと授業がわからないという問題点があると思えます。

それに対して、どういう工夫をなされているかという観点で各教科書を見ますと、東京書籍の場合は、ほじゅうのもんだいとか、おもしろ問題にチャレンジ！ということで、それぞれの子どもの習熟度に応じた補充ができるようになっているというしくみに工夫が見られると思えます。

大日本図書の場合には、チェックアンドトライとか、算数の学び方ということで、同じく工夫が見られます。

学校図書の場合も、やはり「力だめし」、あるいはこれができるかなというような問いかけをしていると。

教育出版は、これらの似た方法もあるのですけれども、考えようとか、4コマ漫画という工夫がなされている。

啓林館の場合は、「わくわく算数ノート」とか、教具を切り取る分度器などにもつけられている。そういう工夫が見られる。

日本文教出版の場合には、考えようとか、学び合おうとか、まとめようという、問いかけの形で手順がなされている。いずれもそういう工夫が見られると思えます。

これらを総合して、このような何々を試みようとか、何々をつくってみようとか、そういった問題数を箇所数で合計しますと、東京書籍の場合が72カ所、大日本図書の場合は51カ所、学校図書の場合が63カ所、教育出版が66カ所、啓林館が71カ所、日本文教出版の場合が55カ所と。これは東京都の教育委員会の調べた表から独自に集計すると、こういう箇所数になりまして、そうすると、東京書籍が一番多くて、啓林館が2番目かと思えます。

これらは習熟度別授業に非常に適した項目なのですが、一方、タブレットの利点がさらに生きてくるという意味でいうと、私たちはタブレット授業について何度か現場と話し合いを

しましたが、その中で、やはり子どもがタブレットに図や絵を描くというような作業がたちどころに一覧表で、教員が、あるいは全体がわかるという使い方があって、これらの図形等の問題が多いというのは、タブレットがさらに生きるという点で利点があると思います。

それから、やはり現場の声として、計算問題について、その成績を個人別にエクセルで残して、タブレットに残しておいて、それを表示することができるという話もありました。こういった形で、子どもたちがそれぞれどこまで進んでいるかということが、やはり使いやすいかと思います。

そういった意味で、タブレットで使えると言ったら、どれも使えるのですけれども、それがさらに生きてくるといふことと、習熟度別授業を全国に先駆けて荒川区で始めたという点からの使い勝手からいうと、やはりこのような自分で算数の問題をしてみるという箇所数が最も多いという点は評価できると思います。

委員長 ありがとうございます。では、高梨教育長。

教育長 私も先生方とほぼ同じでして、教科書を比較して検討する際に、どれだけ日常生活に密着した事例が掲載されているかというところで調べてみました。と申しますのも、どうしても、算数が好きな子、得意な子はいいいのですが、なかなか数学的な考え方というのが、慣れないお子さんにとっては、いきなり計算といっても、数字を抽象的なものとして捉えざるを得ません。これがケーキを分けるとか、時計を見るとか、日常生活の場面に置き換えた中で算数的な考え方、計算がこのように役に立つのだよと、自分の生活を理解する上で役に立つのだよということがわかりやすく解説されていると、算数も好きにはなれなくても、やらなくてはいけないのではないかなと自覚してもらえと思いました。

そういった意味では、先ほど来、先生方が東京都の分析の数字も指摘されていますけれども、算数的活動というところで、東京書籍については、わかりやすく事例として掲載されていると思いました。巻末の自習コーナーも含めて、発展的問題といいますが、応用的問題も充実していますし、一方で、前の学年を振り返ろうということで、新しい学習に入る前に、そもそも分数の割り算に入る前に、分数の足し算はどうだったかなということも、確認してみようというようなところも掲載されていますので、いきなりどんどん新しいのに入っていくのではなくて、前に学んだことをきちんと理解しているかどうか確認した上で、新しい学習に入っていきという構成になっているということもあります。現在使っているということで、先生たちが慣れていくということもありますけれども、東京書籍を推したいと思います。

委員長 ありがとうございます。では、4名の委員の先生方、東京書籍であります。私の考えも同じです。と言いますのは、数学的な考え方を伸ばす構成になっているということの主

眼といたしまして、日常生活から意識した場面をもって、それを繰り返し、覚えているかな、力をつけているかなと。そういうことに対して、非常によく説明されている。導くようになっている。それと、指導者、保護者への欄がある。親子が共同してできる欄があるのだなど。そして、もう一つ特筆すべきは、見やすく使いやすそうで、非常にレイアウトがいいものですから、そういう点で、東京書籍を私は推薦いたします。

今まで全部の先生方が、東京書籍で、全部一致していました。教科「算数」、種目「算数」については、東京書籍が5票ということで満票でありますけれども、これにつきまして、御意見、そのほかございませんでしょうか。よろしいですか。では、5名の先生方の投票ですので、教科書を採択したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 ありがとうございます。異議なしとございましたので、教科「算数」、種目「算数」につきましては、東京書籍の教科用図書を採択いたします。

続いて「理科」でありますけれども。15時43分まで、先ほどお話ししましたとおり、休憩時間となります。傍聴の方々、よろしくお願ひします。

休憩 15時33分

再開 15時43分

委員長 では、再開いたします。よろしいですか。教科「理科」、種目「理科」を審議・採決いたします。指導室長、「理科」について御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「理科」、種目「理科」、調査研究のまとめの報告をさせていただきます。

東京書籍でございます。内容でございます。全体にシンプルで枠が少ない。巻頭に問題解決の流れが明示されている。表現でございます。ノート、記録カード例が豊富である。「理科のひろば」において実生活と結びつくような内容を記載している。巻末に「保護者の皆様へ」の記載がある。単元構成でございます。単元をまとめた「たしかめよう」がある。一部の単元構成が他社と異なる。3年生、6年生でございます。地域性でございます。オオムラサキセンターが掲載されている。

大日本図書でございます。内容でございます。折込頁が有効活用されている。巻頭に問題解決の流れが明示されている。表現でございます。ノート、記録カード例が豊富である。

「理科のたまてばこ」で実生活と結びついた内容を認識し実感できるようにしている。単元構成でございます。学習しやすい時期に単元を配列している。巻末に「まとめの問題」があり、振り返りがしやすい。「活用」の記述が多い。使用上の便宜でございます。文字がやや小さいが、太く表示されている。地域性でございます。B区分において区内施設を連想できそうな写真を掲載している。

学校図書でございます。内容でございます。巻末資料が充実している。情報量が豊富である。表現でございます。考察と結論を分けて指導できるようになっている。巻頭に1年間の流れの記載があり、巻末に学んだこととして1年間のまとめがある。単元構成でございます。学年始めの単元として特徴的な内容が取り上げられている。5年生でございます。一部の単元配列が他社と異なる。5年生でございます。使用上の便宜でございます。文字が小さいが、枠線が多い。

教育出版でございます。内容でございます。巻頭に振り返りがしやすい工夫がされている。1学期にも実験内容が入っている。表現でございます。写真や絵が多い。巻頭・巻末に達人からのメッセージが記載されている。単元構成でございます。「確かめ」で基本の内容を確認できる。「活用」の記述がある。6年生の3学期に学ぶ単元が多い。使用上の便宜でございます。文字がシンプルで大きい。地域性でございます。荒川区の下水処理場が記載されている。6年生でございます。

信州教育出版でございますが、地域限定の教科書でございますので、調査研究はいたしておりません。

啓林館でございます。内容でございます。40頁を超える別冊(ワークシート)がある。巻末に地域資料が掲載されている。5年生でございます。巻頭に問題解決の流れが明示されている。表現でございます。写真の説明が丁寧である。観察・実験の装置や児童の手元をズームアップしている。巻頭に学習の進め方のページがある。巻末に「保護者の方へ」の記載がある。単元構成でございます。3学期に学習する単元が多い。ものづくりの活動の記述が多い。使用上の便宜でございます。文字はやや小さいが、見やすく配慮されている。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

委員長 ありがとうございます。では、御発言お願いいたします。

坂田委員 理科については、いずれの出版社も調べて考えるということを重視された構成になっているかと思えます。また、これも各社共通に、環境学習に一定の紙面が割かれているのは評価できるかと思えます。個人的には、将来のある子どもたちに、科学技術が今後急速に変化しつつあるということを少し触れてほしかったと思えます。例えば、近い将来、技術進歩によって太陽電池は屋根に乗るものだというイメージは、固定観念は崩れるだろうと私は思っていますけれども、そういった今の固定観念は、必ずしも子どもたちの将来においてはそうではないのだよというようなことも少し言っていただいてもよかったですかなと個人的には思っております。

それらの中で総合的に検討してみたのですが、大日本図書は実験・観察が重視されている上に、シールなどの形で子どもの興味を引き出す工夫がなされているかと思えます。「考え

よう」とか、「ジャンプ」といった欄がありまして、そういったものの配置が一番適切かと思えます。巻末にまとめの問題があって、これは効率的な復習に役立つのではないかと思います。基礎的な内容と発展的な内容のバランスもよいのではないかと思います。

啓林館ですけれども、こちらも思い出す、考える、チャレンジなどの流れがよくて、『わくわく理科プラス』という付録も充実している。あとは星や星座を見るとか、そういった付録が非常に充実しているかと思えました。内容的には、発展的内容が大日本図書に比べると、やや多く、やや難しめという印象です。

教育出版は、わかりやすさの点では優れているかと思えます。教育出版は、6年生で、折り込みの大きな図で人体を学ばせているところが非常に特徴的だと思えました。

それから東京書籍ですけれども、「たしかめよう」「考えよう」の項が丁寧であって、また、まとめが最後に来る構成もよいかと思えます。

学校図書だけは少し印象が違って、最もサイエンスの香りがするのですが、やや難しいと思えました。

以上、理科の教科書はいずれもいいものがそろっていて、なかなか判断が難しかったのですが、私としては、総合的には大日本図書の『たのしい理科』を挙げたいと思えます。

委員長 ありがとうございます。では、小林先生、よろしいですか。

小林委員 理科の教科書を選定するときのポイントとしまして、私自身は現在、理科離れが進んでいるという現状から、1点目としては、基礎をきちんと踏まえた上で、発展へつなげることができる内容であるという点を、そして2点目として、実生活との関係がある教科書という点から考えさせていただきました。その点から、大日本図書と東京書籍が優れているのではないかと思います。

まず、大日本図書ですが、1点目としては、基礎的な事項が充実していることに加えて、発展的な内容を取り上げておりまして、例えば「理科のたまたまばこ」という項目がありまして、非常に発展的な、興味深い事項が紹介されております。また、東京都の資料を見ましても、大日本図書の場合に発展的な内容を取り上げており、また、ものづくりの種類も多いということが指摘されております。そして大日本図書の場合、写真が豊富でわかりやすいというのがあります。例えば、3年生のところで見ますと、サナギからチョウへの写真が22ページから25ページまでわたって紹介されてありまして、こういったことに見られるように、写真がわかりやすいというのが指摘できるかと思えます。

東京書籍は、シンプルですっきりしていて、基礎的な事項をきちんと押さえている点が指摘できます。それと2点目としては、考えさせる内容になっているかと思えます。

ただ、総合的に判断すると大日本図書がいいかと思っていますので、推薦させていただき



たいと思います。

委員長 ありがとうございます。

教育長 私も大日本図書がよいと思いました。理由としては2点ありまして、1点は、先ほど坂田委員からお話がありましたけれども、各單元において、「考えよう」ですとか、「予想しよう」とかいうことで、まず子どもたちに、児童に課題について自分の予測や考えを形づくらせるといいますか、自分自身はどう考えるのだというようなことを問題提起しているところが優れています。やはり理科というのは、ただ単に知識を習得するだけではなくて、実際に実験ですとか、あるいはまた、今まで積み重ねてきた自分の知識を踏まえた新しい課題に挑戦するということが必要になっていきますので、そういった理科的思考を養う上で、まず自分自身に考えさせるという構成になっているのがよいと思いました。

また、「理科のたまてばこ」等で、発展的な内容なのですけれども、ただ単に知識というのではなくて、例えば電磁石ですとか、燃焼の項目等で、電磁石を発見するに至った経緯やその科学者がどのようにして電磁石を発見するに至ったのか、あるいはまた燃焼では、二酸化炭素を発見するに至った経緯等を含めて、読み物としてもかなり興味深い内容になっています。基礎もそうですし、より深く学習したいなという子どもたちにとっても、興味が持てる構成になっていると思いました。

委員長 ありがとうございます。

青山委員 理科は小学校3年から始まるわけです。算数と同様に、やはり早く苦手意識を持ってしまうという子どもがあり得るわけですが、一方では、理科に興味を持っていくと、将来そちらの方向に進むという子も多い。そういう意味では、先ほど発言がありましたけれども、どの教科書も非常に興味を持たせるような工夫はなされていると思います。

そういう中で、今回の文部科学省の小学校の学習指導要領の解説の中で、改訂に当たっての理科改訂の趣旨に関連して、改善の具体的事項として、「生活科との関連を考慮して、ものづくりなどの科学的な体験や身近な自然を対象とした自然体験の充実を図るようにする」という項目があります。こういった観点からすると、ものづくりの内容として、内容のAの分類でいうと、「物質エネルギー」と、内容のBの「生命・地球」とあるわけですが、内容Aの「物質エネルギー」については、さすがにどの教科書もかなり幅広く項目を扱っていて、遜色がないのかと思いますが、内容Bの方についても、やはりそれなりに扱うということが、生活科との関連からも大切かなと思います。

そういう意味でいうと、大日本図書は、日時計と、それからペットボトルで鉢をつくる方法というのを扱っています。それから啓林館が日時計と雨量計を扱ってしまっていて、これらはそれぞれ、できれば使ってほしい項目を扱っていると思います。

それから今度は全く別の角度から、荒川区の地域性というところからいうと、教育出版は荒川区の下水処理場を扱っています。下水処理場というのは、これを授業で、理科で扱おうと、いろいろと、単に都市生活とか衛生とかいうだけではなくて、人間の健康とか、医学、生物学まで非常に幅広く、あるいは再生エネルギーの問題まで、扱おうと思えば扱える非常に大きな教材で、しかも荒川区で最も重要な都市施設なので、これはちょっと捨てがたいと思います。

それから今度、いずれの理科も魅力的な教科書ですけれども、一つ気が付いたのは、大日本図書が、それぞれマークはいろいろあるのですけれども、大日本のマークは「問題マーク」「予想マーク」「計画マーク」「観察・実験マーク」「考察マーク」「結論マーク」ということで、かなり工夫をされていると思いました。

以上です。

委員長 ありがとうございます。そうすると、今までの委員の方は、大日本図書は4人の委員がいいということでありました。私の選択基準を幾つか言いますと、実生活と結びつきやすい、実験をわかりやすく説明している、環境についても十分考えているというところで選びました。

まず、『新しい理科』、東京書籍ですが、これは実験なども非常にまとまっているのですが、5年生での図が、ちょっとリアル過ぎるのが幾つかありました。これは果たしてこんな大きな図で、簡単に言ってしまうと妊娠38週の写真を、5年生でこれを見せてしまっているのかなと思って、そういうことでちょっと残念ですが。全社通してほかの教科と比べると、理科だけが、レイアウトがあまりうまくないかと思います。東京書籍は、他教科だとレイアウトはうまいですね。そう思っている感想です。

それから大日本図書ですが、これがいいところは、前回も使っているのですが、観察・実験、それから物理・エネルギーとか、生命・地球についての記載が7割。これは発展的だということ、いいと思ったのですが、その他にも荒川区のことを書いてあったり、たくさん評価するものがありますけれども、私は『わくわく理科』の啓林館を薦めたいと思います。

それは、先ほど言った、実生活と結びやすく、実験がわかりやすい。手に取って非常に身近に感じるというのは、観察とか実験の装置が自分たちの手の元にある。これは本を読んでいる、楽しいな、こうやればあんなのかということがある。特に植物の成長など、絵が美しかったりとか。文字が少し小さいのですけれども、もう3年生なら大丈夫だろうと。見やすく、教科書としてはいいと思ひまして、啓林館を私は推薦いたしました。ほかに意見はございませんでしょうか。

教育長 啓林館もいいと思うのですけれども、少々内容が難しいのではないかと感じられま

した。

委員長 確かに難しいなと感じますけれども、もう一つ、学校図書は表紙が非常に素敵なので  
すね。全巻にわたって、アトラクティブな、調べて楽しく、この下は何だろうと、だんだん、  
だんだん、興味を引くようなことで、非常に魅力的でありました。

ほかに意見はございませんでしょうか。なければ採決に移ってよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

委員長 では、大日本がよろしいと思う人、挙手をしてください。

〔委員による挙手〕

委員長 4票入りました。啓林館は1票、私です。そのため、大日本図書を採択することにし  
たいと思いますが、異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議なしということで、教科「理科」、種目「理科」は、大日本図書を採択すること  
にいたします。

では、次に移ります。次は「生活」です。「生活」についてお願いします。教科「生活」、  
種目「生活」を審議・採決いたします。指導室長より「生活」について御説明をお願いいた  
します。

指導室長 教科「生活」、種目「生活」の調査研究のまとめを御報告申し上げます。

東京書籍でございます。内容につきまして、学習の流れ、ねらいが見開きでわかりやすく  
構成されている。単元構成でございます。多様な学習活動例が写真や絵で示されている。

大日本図書でございます。内容でございます。飼育・栽培活動について、具体的な学習場  
面を多く取り入れている。表現でございます。発達段階にあわせて児童の記録を掲載してい  
る。児童の興味関心が高まるような「仕掛け」のページが挿入されている。単元構成でござ  
います。四季の順に大単元が構成されている。内容の構成がよく教師が指導の参考にできる。  
板書例や掲示等紙面の工夫がされている。

学校図書でございます。表現でございます。カードの例が豊富で内容もよい。教員の言葉  
の記入もあり、指導の参考になる。

教育出版でございます。内容でございます。言語活動が特に充実している。表現ござい  
ます。授業の様子がわかるイラストや板書例が豊富である。地域性でございます。町たんけ  
んが入っていて、下町色がある。

信州教育出版は先ほどと同様、地域限定のものでございますので、調査はいたしておりま  
せん。

光村図書出版でございます。表現でございます。呼びかけの言葉など、興味・関心を持つ

ように工夫されている。単元構成でございます。「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3段階構成。

啓林館でございます。内容でございます。別冊がついている。4段階（導入・活動・交流・広げ深める）で、学習の流れを明示している。単元構成でございます。「いきいき」の最初のページが活動の見通しを持たせている。

日本文教出版でございます。内容でございます。活動を細かく描き授業の流れがよく分かる。表現でございます。学習カード例が豊富で、指導の参考になる。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

委員長 ありがとうございます。教科「生活」、種目「生活」について御説明がありました。ご審議をお願いいたします。

坂田委員 いずれも低学年の子どもたちにとっては親しみやすい内容となっているかと思えます。これは算数の場合にタブレットの話がありましたけれども、生活は、やはりタブレットを使って学習するにはどの教科書も適すると思えます。

内容的にはかなり似ているものなのですが、日本文教出版だけは写真より絵がたくさん使われていて、どちらがいいというわけではないのですが、ほかと異なる印象があるかと思えます。東京書籍については、「できるよ、やってみよう」という、例えば「観察しよう」などと実践的な内容となっているかと思えます。子どもたちが普段気をつけることや、安全に関する内容が多く取り上げられていると考えました。

大日本図書は、「何々をしよう」という呼びかけが多くて、実践を重視しているという印象があります。教育出版は「調べよう」「話し合おう」など、興味をわかせる内容となっているかと思えます。家庭と地域生活との溝を埋めるといいますか、橋渡しをするというか、そういったところが一つ重視されているポイントなのかと思いました。

学校図書は、最初にアサガオだとか、その後ドングリだとか、子どもたちがこういうものは大好きなので、理科に向けてアサガオとかドングリとか、子どもたちの好きなテーマを多くの紙面を割いて扱っているところが優れているのではないかと思いました。

それから、啓林館ですけれども、別冊の『せいかつたんけんブック』というものがありまして、授業でうまく活用できるならば、よい内容かと思えます。写真が大きくて字が少なめで親しみやすいかと思えます。光村図書は、写真に学校での場面が多くて、親しみやすい内容かと思えます。

総合的に考えまして、私は東京書籍か、学校図書がいいと考えております。

委員長 失礼しました。東京書籍とどちらですか。

坂田委員 学校図書か、今まだ迷っています。

委員長 では、後で。ありがとうございました。では、小林先生です。

小林委員 生活の場合は、1年生からということもありまして、1年生に対する親しみやすさということから考えさせていただきました。その点から言いますと、例えば、大日本なのですが、学習関心を高めるために工夫された教科書であるということが言えると思います。例えば、大日本の場合に、プラスチックのページが入りまして、上でこういった工夫がされているというのは、子どもたちの関心を高める上で有効ではないかと思いました。また、68ページのところに白黒の写真があった上で、紅葉の写真なのですが、白黒の写真があった上で、70ページになるとカラー写真となりまして、このように想像させてから実際にこういう色であったという形で見せるという意味では、工夫されていると思いました。

それと、教育出版も工夫がされておりまして、例えば、「せいかつ みんななかよし」の上で見ると、45ページのところに「たねになってみよう」という仕掛けがありまして、これなどは子どもにとってはいいのではないかと。興味・関心を引く内容ではあるかと思えます。

それと、東京書籍の場合なのですが、最初の部分、「スタートブック」というものがありまして、1年生の具体的な行動と、それを写真で見せるといったものがバランスよく配置されているというのがあるかと思えます。あと、東京書籍の場合に、安全を非常に重視している内容というのが特徴かと思いました。例えば、東京都の資料で見ると、安全に関する内容を取り上げている箇所、東京書籍の場合、これがとても多く、平均値が91.5なのですが、東京書籍は261と。子どものやはり生活の中で最近リスクが高まる中で、安全を重視する必要があるかと思えますので、その点特徴があるかと思っております。

総合的に考えまして、私自身は東京書籍を推薦させていただきたいと思えます。

委員長 ありがとうございました。

教育長 今、小林委員におっしゃっていただいたように、特に低学年の児童にとっては学校生活を安全に送れるかどうかというのは大変重要なポイントになっております。学校内だけではなく、通学の際、そしてまた休日のときにも交通安全ですとか、いわゆる不審者対応も含めて、なかなか低学年の場合、自分の身を自分で守るというわけにはいかない場面もあります。そのためには、繰り返し繰り返し教師が教えることによって、みずからの生命を守るという考え方を子どもたちにきちんと植えつけさせていくということが、大変重要なことであると思っております。そうした意味で、ご指摘いただいたように、東京書籍についてはかなりの箇所、安全について記述されておりまして、それは大変すばらしいと思いました。

一方で、荒川区は職業体験、キャリア教育にも力を入れております。店舗での実習ですとか、あるいはまた地域、町に出かけて行って大人の方たちがどのような仕事をしているのか、それが町の発展にどのように寄与しているのかということをもっと学ぶということに力

を入れているのです。その町の探検といいますか、職業の紹介という切り口で申し上げますと、教育出版では、より下町の実態に即した事例を写真つきで紹介されておりまして、これは大変すばらしいなと思いました。

私自身は、安全面からすると東京書籍、職業体験等からすると教育出版ということで、どちらも甲乙つけがたいのですけれども、どちらかということであれば、教育出版を推させていただきたいと思います。

委員長 ありがとうございます。

青山委員 生活は1・2年生なので、小学校に入ってから、まず家族との関わりがあって、それから地域の人との関わりがあって、それから学校以外にもいろいろな公共施設がありますねと、そういう進め方をするというふうに学習指導要領から読めるわけです。そういう意味でいうと、1・2年生の間に、小学校に通い始めて、公共施設にどのようなものがあるかということについては、やはり最低限取り上げられている必要があると思います。具体的にいきますと、交番とか、駅とか、図書館とか、バスとか、鉄道とか、公園とか、あるいは点字ブロックですとか、車いすスロープだとか、外国語表記だとか、そういった項目にまで、できれば1・2年生で触れていくということが、学習指導要領やその解説から読み取れるのだと思います。これらについて比較的充実しているのは、教育出版ということになると思います。

それから、もう一つ防犯と防災のバランスなのですけれども、1・2年生ですから、防犯についてももちろん非常に重要な項目として扱わなければならない。一方で、やはり防災とのバランスが必要だということになります。どちらが多いのが望ましいのかということについては、学習指導要領では決められていないので、それぞれの教科書の考え方ということになるのかなと思います。そういう意味でいうと、どちらも重要なのですけれども、荒川区の場合はやはりゼロメートル地帯が多いとか、地震で地盤状態が弱いとかということも含めると、やや防災にバランスがとれているほうがいいのかと思います。そうすると、教育出版のほうが防災については充実しているのではないかと思います。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。そうすると、あとは私ですね。私の選ぶ観点は、身近な人、社会との関わりということで、特に荒川区は学校、子どもたちと地域の人たちのつながりが非常に強いものですから、そういう点で、そのところを重視しているものを選びました。そしてもう一つ、学校生活から社会生活に、それから四季から流れ、学期との関係や社会生活、安全について取り上げてみますと、安全は学校図書が非常に公共施設のことについて書かれているのですね。しかし、トータルで見ると、今まで使っている東京書籍にした方がいいなという考えを持っております。特に強い関心があるのは安全、社会との関わりというこ

とで、東京書籍を推したいと思います。

そういうことで意見がまちまちになりましたので、これにつきましては、候補が一致しないので、議案記載の順に発行社名を読みますので、挙手いただきまして採決したいと思います。

東京書籍の方は。

〔委員による挙手〕

委員長 よろしいですか。では、東京書籍は3票。学校図書、教育出版はどうですか。

〔委員による挙手〕

委員長 わかりました。では、東京書籍に3票、教育出版に2票ということでありますけれども、そういうところでよろしいでしょうか。

結果は東京書籍が3票、そして教育出版が2票ということで、教科「生活」、種目「生活」につきましては、東京書籍の教科書を採択することにしたいと思いますが、よろしゅうございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 では、これを終わります。

次に、引き続きまして教科「音楽」、種目「音楽」を審議・採決いたします。室長より「音楽」の御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「音楽」、種目「音楽」の調査研究のまとめを御報告申し上げます。

教育出版でございます。内容につきまして、題材名と共通事項が各ページにあり、巻末に「音楽のもと」にまとめてある。国歌はどの学年でも載せられており見開きを使い歌詞の大意も示している。表現でございます。身ぶりや手話を取り入れている。鑑賞のワークシートのページについては、目次に共通教材をマークで表記している。単元構成でございます。音楽づくりの量が多い。写真や関連する情報の量が多い。使用上の便宜でございます。1～3年生にプラページがある。全学年、写真の折り込みページがある。地域性でございます。郷土の音楽で近隣区の「三社祭」と「葛西ばやし」が取り上げられている。和楽器の扱いが4年生からである。

教育芸術社でございます。内容でございます。子どもの活動の言葉で題材名が示されている。国歌は、全ての学年で最後に載せられている。表現でございます。共通教材を「こころのうた」としている。どの学年も裏表紙に子どもの写真で「まつりとがっき」を載せている。単元構成でございます。目次の題材名の下に、それぞれ説明文の記載がある。地域性でございます。郷土の音楽で近隣区の「神田囃子」がある。和楽器の扱いが3年生からである。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

委員長 ありがとうございます。では、早速でございます。御審議をお願いいたします。どうぞ。

坂田委員 教育芸術社につきましては、楽譜の読み方、それから旋律、リズム、あと旋律とリズムの関係とか、こういったことも学習の面において、やや優れているのではないかと考えます。こういった点について、1年生の段階からわかりやすく教え始めておりまして、例えば、3年生ですね。4分の3拍子、これは3年生の2ページとか3ページになりますけれども、3年生で4分の3拍子といったようなことまで学習させる内容になっています。教育出版の方では、同じようなことについて、4年生で教えています。

高学年になりますと、例えば、教育芸術社の方では6年生にアンサンブルといったことについてもわかりやすく教えています。全体として題材が豊富であって、内容が濃いと思います。それから、巻末には「ふりかえり」のページもあるのは、指導上有意義ではないかと思えます。相対的に見て少し高度で難しい面があるとは思いますが、そこを図解や写真でうまく補っていると考えます。

教育出版の方は、親しみやすさの点では優れていると思います。大きな写真を多く取り入れていて、ゆったりとした学習を重視している感じがあります。

以上を総合いたしまして、私としては教育芸術社の方を推薦したいと思います。

委員長 ありがとうございます。お願いします。

青山委員 これは2者からの選択ということになるわけですが、表現とか鑑賞ということでの教材面での力の入れ方については、歌唱と器楽と音楽づくりと、3つの分野に分けると、荒川区の場合はやや器楽に傾いている方がいいと思います。これは荒川区の今までの音楽教育がそこに一番力を入れてきたというか、あるいは力が発揮されてきたということだと思うのですが、そういう意味でいうと、学習指導要領を守った上で、どこにバランス上、力が入れているかという、器楽に力を入れている教育芸術社の方が荒川区には適していると思います。

委員長 ありがとうございます。

教育長 私も、2者の比較という形の中で、その学年で教えなくてはならない共通の教材があるのですが、その取り上げ方について、同じ曲で比較してみました。教育芸術社については、その歌がどんな背景でつくられてきたのかとか、どのような思いで歌うべきなのかというようなことが細かに書かれてあって、ただ単に歌を覚える、うまく歌うというのではなくて、まさに歌の心情をくみとれるような構成になっているというところがあって、大変好感が持てました。また、細かいところですが、国歌「君が代」が各学年とも同じページのところに掲載されておまして、そういった意味では子どもたちに誇りを持って成長



をしてもらえるような、音楽教育においてもそういった構成になっていると思ってございます。

委員長 ちょっとわからなかったのですが、芸術社、こちらの後ろにきちんと「君が代」が全部入っているのですか。

教育長 そうですね。

委員長 わかりました。ありがとうございました。では、小林先生。

小林委員 教育出版についてなのですが、歌だけではなくて、歌に関連する説明事項が非常に細かく充実しているといった特徴があるかと思えます。歌を歌うときに、どういったことを考えながら、その背景まで読み取りながらいかに歌うのかということができるような、そういった補足がされていると思ひまして、その辺は優れている点かと思ひました。

ただ、私自身は教育芸術社の方を推薦させていただきたいと思ひます。それは、この教育芸術社の方なのですが、非常にいい曲が収録されているという点でございます。例えば、5年生で見ると、5年生の6ページに「ビリーブ」が入っておりまして、荒川区は周年行事が充実している区でございます、卒業式、周年行事等の「ビリーブ」は定番ソングとしてございます。また、6年生のところで見ますと、54ページのところ「旅立ちの日に」とありまして、これは「白い光の中に山なみは萌えて」という、いわゆる卒業式定番ソングだと思うのですが、こういったものが入っておりまして、その点で教育芸術社の方を推薦したいと思ひます。

委員長 ありがとうございました。私も答えなければなりませんので。先生方のお話に既がありましたように、題材が多くて、構成のつながりがいいという感じと、もう一つ荒川区の特徴として、重視している器楽が多くあること。それから、一方では和楽の方も、三味線もありますし、そういう点から見ると、教育芸術社でいいと思ひます。この得票は満票という、5人の先生方とも教育芸術社の方でございますので、これに意見がないようであれば採択したいと思ひますが、よろしいでございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議なしということで、教科「音楽」、種目「音楽」は教育芸術社ということに採択させていただきます。

次に「図工」です。教科「図画工作」、種目「図画工作」について御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「図画工作」、種目「図画工作」の調査研究のまとめを御報告申し上げます。

開隆堂出版でございます。内容でございます。作品の写真が多い。4観点を自己評価できるように、最後に取り上げている。自主的に短時間で取り組める「ひらめきコーナー」があ

る。表現でございます。用具の使い方が4ページ、写真や図が小さく載っている。鑑賞「みんなのギャラリー」が設定されており、テーマが明示されている。単元構成でございます。「自分の考えや感じ方を大切に表現の追求」がコンセプトになっている。各学年、一人のアーティストを紹介している。使用上の便宜でございます。A4サイズで耐久性がある。文字が大きめで鮮明である。

日本文教出版でございます。内容でございます。目標が最初に載っている。子どもの活動写真が多い。4観点を目標として取り上げている。表現でございます。用具の使い方が6ページ、写真や図が大きく載っている。鑑賞「ぞうけいのもり」が設定されている。単元構成でございます。「試す・かかわる・作り出す姿」がコンセプトになっている。ほぼすべての題材を見開き1ページに載せている。使用上の便宜でございます。A4サイズよりやや小さいレターサイズである。耐久性がある。文字はやや小さめであるが、鮮明である。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。では、図画工作につきましての御説明がありました。御審議をお願いいたします。

坂田委員 開隆堂のほうは、ハサミやペンチなどの身近な道具の使い方の説明が充実しているのではないかと思います。また、目次を見ますと、用具や材料との対応表がありまして、どういう場面、どういう過程でどういう用具や材料を使うか、一覧で非常にわかりやすくなっていると思います。それから、内容を細かく見ますと、安全面での教育も充実されていると。こういう道具を使ったり、工作をしたりする上で、安全面の教育も重視されているように考えられます。全体として指導しやすい構成になっているのではないかと思います。

もう一つ、日本文教出版のほうは、全体としてカラフルで親しみやすい印象を受けます。ただ、用具や材料に関する基本については、もう少し内容をふやしてもよいのではないかと思います。図画工作の科目の特徴としては、すべて教科書理論ではなくて、全体の図画工作の指導の中で教科書を使うという教科の性格ではないかと思いますけれども、そういう意味では、基本的には教員が指導に使いやすいという評価のものを推すのがいいかと思います。

以上のように考えますと、私は開隆堂のほうを推薦したいと思います。

委員長 ありがとうございます。

青山委員 図画工作の場合は、学習指導要領でも表現活動と鑑賞活動と、この2つが柱になっているわけですがけれども、表現活動をするための鑑賞活動という意味でいうと、鑑賞の題材は比較的多い方がいいのではないかと思います。そのほかの表現の内容、題材数等は遜色ないわけですがけれども、それから、鑑賞の学習用の資料の数も遜色ないのでありますが、鑑賞の題材数がやはり開隆堂の方が多いので、こちらを支持したいと思います。

委員長 ありがとうございます。

教育長 私も開隆堂を推したいと思います。その理由は、やはり教員の教えやすさから見た教科書というのが大切だと思っております。開隆堂については、各項目ごとに「ふりかえって話し合おう」ということで、それぞれの授業において、工作等の中でどのような点に気をつけたらいいのかということが記載されています。これは主に児童自身が振り返るといことなのかもしれませんけれども、一方で教員がこの図画工作等を行う上で、しっかり把握しておくべき事項ということも言えるかと思っております。それが明確に出ているという意味でいえば、とりわけ低学年については、担任の先生が教える場面も多いわけで、その際に指導がしやすいつくりになっていると思っております。また開隆堂の方が、教科書が大判で見やすくなっているかなというところがありますので、開隆堂を推したいと思っております。

委員長 ありがとうございます。小林先生、お願いします。

小林委員 私も開隆堂を推薦させていただきたいと思っております。まず1点目としては、鑑賞の題材数などが多く、やはり美術におきましては、鑑賞が非常に重要で、より多くの作品に触れるということが大事と思っております。2点目としては、開隆堂の方が、考えたり、工夫する、チャレンジする内容がより精選されておまして、この点がいいと思いたしました。そういうことから、開隆堂を推薦させていただきます。

委員長 わかりました。開隆堂は4人の委員の先生が推薦してくださいました。私も同じです。理由は、特に6年生のこれらを見ますと、モノを作って、クリエイトさせて、夢をつくり出すという展開が大きくみられるので、開隆堂の方が考えられます。芸術に関係するわけですが、細かな用具や材料、安全についても教え、さらに題材を多くして、共同でモノをつくり出す、クリエイトするということで夢がある本だなと思って、開隆堂を推させていただきますが、そのほか御意見ございますか。

なければ、採決に入りますが、開隆堂が全員でございます。ですから、開隆堂の図画工作について採択したいと思います。異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議なしとのことですので、教科「図画工作」、種目「図画工作」は日本造形教育研究会・開隆堂出版株式会社を採択することにいたします。

では、次に移ります。次は「家庭」です。教科「家庭」、種目「家庭」を審議・採決いたします。指導室長より「家庭」について御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「家庭」、種目「家庭」、調査研究のまとめを御報告申し上げます。

東京書籍でございます。内容でございます。めあてが3段階で構成されて、学習の見通しがもちやすい。身近な消費生活と環境について、具体的な場面が多く例示され、子どもの活

動場を促すような工夫がされている。表現でございます。目次で2年間を通じた学習内容が示されている。手縫いの仕方について、糸の流れが図示されている。学習した内容の振り返りを促すページが設けられている。単元構成でございます。めあてが3段階で示されていることもあり、学習の「習得」から「活用」の流れがスムーズに示されている。健康な衣服と住まいについては、「衣服」と「住まい」が関連づけて学習できるように構成されている。使用上の便宜でございます。製作手順を示す写真に、右利きの場合と、左利きの場合とが併記されている。児童が書き込むスペースが比較的多く確保されている。

開隆堂出版でございます。内容でございます。道具や用具の使い方、衛生に関する内容を扱う際、安全面を重視した配慮事項が多く見られる。表現でございます。手縫いの仕方について、糸の流れが図示されている。用語の説明や家庭科に関する豆知識が注釈の形で書かれている。単元構成でございます。題材ごとに「学習のめあて(目標)」と「ふり返ろう・生かそう」が対応していて、主体的に学習に取り組み、振り返りができる。地域性でございます。86ページのチャレンジコーナー「お弁当づくり」について、比較的大きく取り扱われていて、区のお弁当レシピコンテストなどに関連を図ることができる。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。では早速、御討議、御審査をお願いいたします。

青山委員 学習指導要領に基づく各項目の分布については、2社ともほとんど差がありません。したがって、選定調査会の報告、調査研究のまとめによりますと、使用上の便宜において東京書籍が工夫がなされているという評価がなされておりますので、東京書籍が適切かと思えます。

委員長 ありがとうございます。

坂田委員 東京書籍の方は、「DO! 活動」という項目があちこちのページにありまして、わかりやすく学習の手引きをしているのではないかと思います。したがって、そういったものがあると教えやすいのではないかと考えました。家庭科につきましては、全て専任の教員が教えるわけではないですので、教えやすさがやはり大事と考えます。また、東京書籍の最後の方に「持続可能な社会」というのがありますが、英語ではサステナビリティと言いますけれども、これは世界的にも重要な概念になっておりますので、少しですがこういったものを取り上げているところも評価できるかと思います。それから、身近なところでいろいろな形で重要になってくるJISマークだとかJASマークだとか、こういったマークの説明もわかりやすく最後についていて、この辺もいいのではないかと思います。

開隆堂の方は、「チャレンジコーナー」というのがありまして、これはよい紙面ではないかと思います。86ページに「お弁当の作り方」というのがあって、区でも重視していま

すけれども、子どもの関心を高める内容になっているかと思います。

以上、どちらもよいところがあるのですが、総合的に見まして、特に教員の教えやすさという意味で東京書籍の方を推薦したいと思います。

委員長 ありがとうございます。小林先生、お願いします。

小林委員 まず、開隆堂なのですが、この教科書の特徴として、非常に安全を重視しているという点があるかと思います。例えば、9ページのあたりで見ますと、お湯の沸かし方というのが細かくありまして、やかんを五徳の中央に置くとか、手や衣服を火に近づけないとか、湯気の出るところに顔や手を出さないとか、そういったことがあります。恐らく従来は家庭の中で自然に身につけることができたことだとは思いますが、最近はなかなかそういったことが難しいということもあり、このように細かい安全に向けての注意事項がありまして、その点では優れた教科書であると思います。

それで、東京書籍を見せていただきますと、例えば117ページのあたりで見ますと、ジャガイモの皮のむき方がありまして、ジャガイモの皮をむくというのは大切なポイントかと思うのですが、それが写真で明確に示されておりまして、この点など重要な点を明確に示しているということから、優れた教科書だと思います。特に東京書籍の場合は、左利きの場合もありまして、このあたり、最近、左利きのお子さんが増えてきているということもありますので、その意味ではユニバーサル対応ということが言えると思います。以上から、東京書籍を推薦させていただきたいと思います。

委員長 わかりました。

教育長 私も結論は東京書籍を推させていただきたいと思います。その理由として、小学校の家庭科の場合、調理の仕方や裁縫の仕方を学ぶということも大切なのですけれども、それと並んで、若しくはそれ以上に、きちんとした生活習慣を身につけさせるということが授業全般で大切なことだと思っております。そうした観点に立ちまして、東京書籍においては私の仕事と生活時間とか、朝食から健康な一日の生活をということで、きちんとした生活習慣を身につけることの重要性について、かなりページを割いて細かく記載してございます。朝起きるのが遅くて朝ご飯を食べないで登校してきたりしますと、どうしても授業に身が入らなくて、結果的に十分な学習効果が得られないということもあります。家庭科の授業においても、そういった生活習慣をきちんと身につけさせるということ、今後とも荒川区教育委員会として重点的に進めていきたいと思っております。そういった観点からも、東京書籍の教科書については荒川区の目標と合致すると思っております。

委員長 ありがとうございます。私は、東京書籍は大変教えやすいだろうと思っています。自由活動があって学習がしやすい。大変甲乙つけがたいですね。開隆堂の方は主体的に取

り組むという印象を持ちまして、もう一つ、しつけや掃除など、整理整頓のことがよく書かれているのです。そういう点が大切かなということと、先ほど話題に出ましたけれども、荒川区は、お弁当レシコンクールをやっています。それが順序正しく、料理が身近になるように書いてありますので、私は開隆堂の方がベターだなと考えました。

では、ほかに意見ございますでしょうか。なければ採決に移ります。大方が東京書籍の方がいいということではありますが、きちんと手を挙げた方がいいと思いますので、もう一度、投票をお願いいたします。挙手をお願いします。

〔委員による挙手〕

委員長 東京書籍がいいと思う方は、4票でございます。開隆堂は私だけです。1票です。この採択につきまして異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議なしとのことで、教科「家庭」、種目「家庭」は東京書籍を採択することといたします。

次に移ります。次が「保健」ですね。では、教科「体育」、種目「保健」を審議・採決いたしますので、指導室長より「保健」について御説明をお願いいたします。

指導室長 教科「体育」、種目「保健」、調査研究のまとめを御報告申し上げます。

東京書籍でございます。内容に関しまして、他教科との関わりを意識した内容になっている。表現でございます。イラスト、具体例が豊富な単元が多い。単元構成でございます。「話し合い 思考 まとめ」の流れになっている。単元末「広げよう」「ふり返ろう」がある。目次ページに4年間の流れが示されている。使用上の便宜でございます。外部参考資料、ウェブサイト名が記されている。右利き・左利きの挿絵が掲載されている。

大日本図書でございます。内容でございます。シールでグラフづくり等、学習活動の工夫につながるようになっている。著名アスリートからの話題を掲載している。単元構成でございます。「自分の考え 話し合い まとめ」の流れになっている。まとめ後に活用の「もっと知りたい」関連の実験データ・資料が掲載されている。不安・悩みの軽減方法が具体的に示されている。使用上の便宜でございます。外部参考資料、ウェブサイト名が記されている。右利き・左利きの挿絵が記されている。

文教社でございます。内容でございます。親しみやすい教師、友だち、父母兄弟のキャラクターや説話を生かして内容が進行していく。表現でございます。資料、写真が豊富である。重要語句には太字を使用している。「心の成長」等がイラストで示されている。単元構成でございます。「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」の項目がある。児童の書き込み部分が多い。使用上の便宜でございます。外部参考資料、ウエ

ウェブサイト名が記されている。右利き・左利きの写真が掲載されている。

光文書院でございます。内容でございます。全体として活用・発展としての取り扱い中心で、生活に生かすための資料が豊富である。安全な環境づくりについての内容が充実している。表現でございます。重要語句には太字を使用している。説明、イラスト等の情報量が豊富である。インターネット被害が取り上げられている。単元構成でございます。「つかむ・あてはめよう・見つけよう・つたえよう」の項目がある。

学研教育みらいでございます。内容でございます。導入ページに方向性を示す工夫がされている。他教科との関わりを意識した内容になっている。表現でございます。写真・挿絵が大きく示されている。重要語句には太字を使用している。単元構成でございます。「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」「活用」の項目がある。単元末に「学習のまとめ」があり、振り返り、書き込みの工夫がある。使用上の便宜でございます。外部参考資料、ウェブサイト名が記されている。右利き・左利きの挿絵が記されている。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。では、御審議をお願いいたします。どうぞ。

坂田委員 この科目は教科書を使って学習する時間が限られているかと思しますので、時間が限られている中で、やはり教員にとって使いやすさがどうかというのは重視する必要があるだろうと思っております。それで、全体の中で私はいずれかと考えたのですが、一つは学研の『みんなの保健』で、これは内容的に見て、子どもたちにとって今すぐ直面していて、非常に重要な心の健康、歯が生えかわりますので、歯とか虫歯とか、それから、体の変化がかなりあります。体の変化、こういった子どもたちにとって特に重要な諸点がきちんと書かれているので、評価できるかと思えます。また、この教科書は学習支援型と言えるかと思えますけれども、子どもたちの知りたいとか、調べたいとか、そういった気持ちを引き出しやすい教科書かと思えます。

次にもう一つ挙げたのは東京書籍なのですが、構成から見ると一番教科書らしいかなという印象を持ちました。具体的には「学習をふり返ろう」とか、「活用して深めよう」「広げよう」といった欄がありまして、教科書的な構成になっているかと思えます。

構成の面から見ると東京書籍がいいと思うのですが、内容から見ると学研の方がいいかなということで、私としては、学研を推薦したいと思えます。

委員長 ありがとうございます。お願いします。

教育長 私は、やはり学研の方がいいのではないかと思いました。今、坂田委員がおっしゃった東京書籍のような教科書的な作り方というのは、保健体育になじまないのではないかと思いました。と申しますのも、自分の体のことについて、ただ単に知識として習得するとい

いますか、覚えるというよりは、自分で考え、自分の健康についてしっかりとした意識を持つということが大切だと考えております。例えば、喫煙の害、アルコールの害、薬物の害等についても、害があるということ学ぶだけではなくて、薬物については手を出さないと自分自身がきちんと自覚するように、考えさせるということを軸に置いた教科書を活用することが、より子どもたちにとって身につく、学習効果の上がるものではないかと思った次第です。

委員長 ありがとうございます。では、お願いします。

青山委員 保健については学習指導要領に従って、心と体の問題について「生涯にわたって運動に親しむ資質、能力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上」と、そういう規定がなされています。これに沿って保健の内容を取り上げているページ数についての東京都の教育委員会の調査があります。これによると、毎日の生活と健康、育ちゆく体と私、心の健康、病気の予防。これらの項目については、学研が一番多くの項目を扱っているという結果が出ております。それから、身の回りの生活の危険についての箇所数、地域での保健に関わるさまざまな活動についての箇所数、このいずれもこれら各社のうち学研が一番多いと。それから、学習指導要領の一般原則として「発展的な内容を取り上げているか」という項目がありますが、これについての箇所数も保健では各社のうち学研が一番多いという調査結果が出ております。

それからもう一つ、保健の場合には男女の違いがあるという特殊性がある科目だと思います。これについては、基本的に男女共同参画社会というのは共通に目指すわけですがけれども、男女の性差についての教育というのがこの科目では要求されるという、この科目特有の特殊性というものがあります。そういう意味では、例えば、職業的な立場だとか、あるいは専門的な立場だとか、あるいは、例えばいらいらしているという場合の対処だとかに、男の方が疲れるのか、女の方が疲れるのか。あるいは、そのほかの職業に男女がどう扱われるかという点についての、やはり東京都教育委員会の調査結果がありまして、これによると学研が一番問題がないという結果が出ております。

以上の結果から、学研が最も適当かなと思います。

委員長 ありがとうございます。では、小林先生、お願いします。

小林委員 私も結論から言うと、学研教育みらいを推薦したいと思います。まず1点目としては、形が大きいということもありまして、挿絵・写真なども大きくて見やすいというのがあります。それと2点目なのですが、例えば、飲酒、あるいは喫煙が最近、低年齢化しているということが問題になっているのですが、そういった項目に関して充実しているということ。また、喫煙、飲酒をしないために具体的な場面を取り上げながら、どういうふうに断るのか



といった内容があります。やはり子どもたちが自分の身は自分で守るということは非常に大切だと思いますので、そういった観点から学研教育みらいを推薦させていただきたいと思えます。

委員長 ありがとうございます。私の意見は、やはり心と体を一体と捉えるということが大切です。もう一つ重要なのは、今のお話にありましたように、成人として、やっでは体にダメージを与えるという観点と、病気に対して予防医学的なことが十分に書かれているように、学研教育みらいが一番感じられました。といいますのは、これは本がしっかりしていませんと、保健体育の時間ですので、講義の時間が短くなっているそうですので、きちんと自分で見て学習できるような本の方がいいということです。その中で内容がふさわしかったのは、今まで使用中でありましたけれども、学研教育みらいがいいのではないかとということで、推した次第です。

そのほか、意見ございませんでしょうか。ほかに意見がなければ、採決に移ります。満票ですから、これで採択したいと思いますが、異議ありませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議なしとのことですので、教科「体育」、種目「保健」は学研教育みらいを採択することにいたします。それでは、この採択することに決定させていただいてよろしいですか。

予定しておりました9教科・11種の採択が終了いたしましたので、改めて確認をしたいと思えます。指導室長、採択の結果を読み上げていただけませんかでしょうか。

指導室長 それでは、結果について読み上げさせていただきます。教科「国語」、種目「国語」、三省堂でございます。教科「国語」、種目「書写」、三省堂でございます。教科「社会」、種目「社会」、東京書籍でございます。教科「社会」、種目「地理」、帝国書院でございます。教科「算数」、種目「算数」、東京書籍でございます。教科「理科」、種目「理科」、大日本図書でございます。教科「生活」、種目「生活」、東京書籍でございます。教科「音楽」、種目「音楽」、教育芸術社でございます。教科「図画工作」、種目「図画工作」、開隆堂出版でございます。教科「家庭」、種目「家庭」、東京書籍でございます。教科「体育」、種目「保健」、学研教育みらいでございます。

以上でございます。

委員長 ありがとうございます。採択結果は今の御発表のとおりでございます。なお、この採択の結果につきましては、本委員会の終了後に公開いたしますので、よろしく願います。

以上で、議案第33号「平成27年度から使用する小学校教科用図書の採択について」の審議は終了いたしました。ありがとうございました。

続きまして、議案第34号「平成27年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」を議題といたします。事務局より議案の説明をお願いいたします。大変重要なことですので、よろしくお願いします。

指導室長 よろしくお申し上げます。「平成27年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」、御説明申し上げます。

小中学校の特別支援学級で特別な教育課程を編制する場合には、学校教育法附則第9条同法施行規則第139条の規定により、教科により当該学年用の文部科学省検定済み教科用図書を使用することが適当でないときには、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができる。そのようなこととなっております。特別支援学級で使用する教科用図書は、いわゆる一般図書と呼ばれております。当区においては、東京都教育委員会が作成しております「平成26年度～平成28年度使用特別支援教育教科書調査研究資料」、及び平成27年度使用一般図書一覧から、各学校が使用する一般図書を選択することとなっております。東京都におきましては、この冊子にある一般図書については十分な調査研究を行っており、当区で使用する一般図書においても、東京都立学校で使用する図書と同じものを使用することにより、各学級の児童・生徒の状況に応じ、適切な図書を選択することとなります。平成27年度荒川区立小学校、中学校、特別支援学級で使用する一般図書の調査のまとめを紙面でつけさせていただいて御報告させていただきます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

委員長 御説明ありがとうございました。事務局より提案がございました。議案第34号、どなたかご意見ございますでしょうか。

教育長 これは指導室長に確認しますけれども、この図書については指導室だけではなくて、特別支援学級の先生方のご意見も含めてこの案ということで、今回提出をしていただいたものと理解してよろしいでしょうか。

指導室長 そうでございます。特別支援学級の学校で、一人一人の子どもの発達段階を踏まえて選定しているもので、調査研究したものでございます。

委員長 ありがとうございます。

坂田委員 今お話がありましたように、特別支援学級におきましては、子どもたちの一人一人の状況に応じて、先生方が適切と判断される教科書を使っていただくのがやはり一番重要かと思っておりますので、今のような選定の仕方に賛成でございます。

委員長 ありがとうございます。では、よろしいですか。御意見がなければ、原案どおり採決することに異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

委員長 異議ないものと認めます。議案第34号「平成27年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」は原案どおり採択することに決定いたしました。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

きょうは長い間ありがとうございました。予定しておりました案件は以上でございますが、その他の事項、事務局で何かございますでしょうか。

教育総務課長 お疲れさまでございました。御手元に今年度の教育委員会の日程を取りまとめた資料として、平成26年度教育委員会日程という予定表を配付させていただきましたので、確認のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

委員長 ありがとうございました。事務局より、手元に今後の予定表が配付されております。ぜひ御参照してください。ほかにございますでしょうか。なければ、以上をもちまして教育委員会第14回定例会を閉会いたします。本日は長い間ありがとうございました。

了